九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

自治産業コロニー「クズバス」とリュトヘルス(2)：アメリカ組織委員会の設立とその運営

山内, 昭人
九州大学 : 名誉教授

https://doi.org/10.15017/7151988

出版情報：pp.1-39, 2023-10-18. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

自治産業コロニー「クズバス」とリュトヘルス（2）
── アメリカ組織委員会の設立とその運営 ── [1]

山 内　昭 人 （九州大学名誉教授）

はじめに
第 1 章　活動開始に向けて
第 2 章　設立に向けて
第 3 章　運営をめぐって
第 4 章　労働者派遣事業概観
おわりに

は じ め に

「世界で最初の産業コロニーを」革命ロシアの地に「造る計画」である自治産業コロニー「クズバス」（АИК-К）[2] の契約書は，1921 年 10 月 21 日に労働防衛会議（CTO）とアメリカ労働者発起人グループとの間でようやく締結されるに至った。同契約書を 10 月 25 日の人民委員会議（CHK）は政府として承認し，ひと月遅れてだが，11 月 22 日に最終契約書にレーニン（CTO 議長として）と同グループのヘイウッド（W.D. Haywood），バイアー（J.H. Beyer），リュトヘルス（S.J. Rutgers）が署名した。すでにその時，いち早くコロニー建設準備に着手するためリュトヘルスはオランダへ，キャルヴァート（H.S. Calvert）とバーカー（T. Barker）は合州国へそれぞれ向けて出発しており，リュトヘルスの署名はヘイウッドが代筆していた。

以上，АИК-К 創設のための契約締結までを第 1 篇で取り扱った。第 2 篇においては，当事者たちが АИК-К 実現の第一歩として何に着手し，何が問題となったか，それらの言わば内部問題を中心に論じていくことにする。

まず，最終契約書締結を待たずに行動を開始した АИК-К 発起人たちが，活動の場を 4

---

(1)　本稿は，連載第 2 篇として扱われる。連載に際して 1923 年 4 月 5 日に九州大学リポジトリで公開した「自治産業コロニー『クズバス』創設とリュトヘルス」を増補改訂し，併せて「自治産業コロニー「クズバス」とリュトヘルス（1）── その創設の経緯 ──」と改題して，以後それを第 1 篇として注記することにする。

(2)　本稿で使用する露語略記および 2，3 の組織についての略説は，第 1 篇冒頭を参照されたい。

つ，すなわちクズバス，モスクワ，オランダ，アメリカ合州国に分けて各自の任務を遂行するために取った態勢を，とりわけオランダのリュトヘルスを中心にアメリカのキャルヴァート，バーカーとモスクワのヘイウッドを両翼に配し，リュトヘルスが両翼の連絡・助言役を務める態勢を明らかにする。

次に，彼らが当初最も注力したのがアメリカ合州国における労働者募集・派遣事業であり，それを手がけるアメリカ組織委員会（American Organization Committee; AOC）がニューヨークに設立される経緯を研究史上初めて本格的に解明する。その際，彼らによる現地の共産党および世界産業労働者組合（IWW）への協力交渉が難航したことに注目し，そこから見えてくる問題を論じる。続いて，その問題に関わって，AOC の運営は委員構成にも苦労し，委員間の意見対立を招き，さらにはモスクワの CTO およびオランダのリュトヘルスとの意思疎通の問題も生じた。それらの問題を，史料面での制約（下記）の中で可能な限り論じる。

それでは，AOC の本業であった労働者派遣事業は，実際にどうであったか？　最後に，1922 年春から АИК-К 自体が解散・再編成されることが決定する 1926 年末までの同事業を，数量的データを用いて予め概観しておくことにする。

本研究に関する史料としては，（第 1 篇冒頭に紹介した史料は省かせてもらい）まず 1922 年 5 月 20 日にニューヨークで創刊された AOC 機関誌『クズバス』（*Kuzbas. A Bulletin devoted to the Affairs of the International Colony Kuzbas*）が挙げられる。ただし，1923 年 12 月 1 日の第 2 巻第 6 号を最後に休刊となり，それ以後の AOC の活動実態を把握するには困難が伴う。当初から誌面に載ることもない舞台裏の AOC の運営は，同会議議事録および当事者間の通信（それらは押収等を避けるために，例えば「毎週 3 部ずつ作成した別々の郵便で連絡して」いた [(3)]）が有力な手がかりとなり，それらを（残念ながら網羅的ではないが）ロシア国立社会−政治史アルヒーフ（略称ルガスピ）のフォント 515（アメリカ合州国共産党（1912−1944））の最後部分に集められているキャルヴァート，ヘイウッド，バーカー関係史料の中に見出すことができる [(4)]。リュトヘルス・アルヒーフには，АИК-К のこの時期の通信に関してはルガスピのフォント 626（リュトヘルス（1879-1961）），オーピシ 1，ジェーロ 13 に 4 通あるだけだが，同じくジェーロ 6 の「クズバス年譜」（cf. 第 1 篇, 2）中に抜粋・引用されているものも利用できる [(5)]。

（3）　РГАСПИ, 515/1/4299/167.

（4）　モレイは『プロジェクト・クズバス』の中で，メリー・キャルヴァート（Mellie M. Calvert）の未刊原稿「クズバス AOC」に載ったベルグ（ベルギス）（S. Berġis; S. Berg）の 1922 年 11 月 22 日付書簡を利用している。J.P. Morray, *Project Kuzbas. American Workers in Siberia (1921-1926)*（New York, 1983）, 130-131, 133-134.

（5）　なお，（第 1 篇で未紹介の）AOC 委員の略歴等は原則初出時に紹介する。注記なしの場合は以下の史料に基本的によっていることを予め記しておく。① 1922 年 6 月 12 日にスカイラー（M. Schuyler）によって作成・提出された最初の報告書，РГАСПИ, 515/1/4296/16-23;　② 1923 年 1 月にメリー・キャルヴァートによって編集された AOC ニ

本篇のテーマに関する先駆的研究としては，スミスの博士論文「クズバス・コロニー ソヴェト・ロシア 1921−1926」があり，その中で機関誌『クズバス』全号を活用しての AOC の実態把握は評価されるが，ルガスピの史料公開後の今日の研究状況から見ると，増補改訂は不可避であるとともに，著者の IWW に肩入れしがちな評価の方向性や共産主義（者）対 IWW（組合員）という二項対立的な解釈にこだわりすぎる傾向性は再検討されるべきであろう[(6)]（このことは程度差はあれモレイの研究にもあてはまるであろう）。

近年の研究では，ネップ期におけるソヴェト・ロシア政府のアメリカ移民政策の失敗に至る経過を，主に対ソヴェト・ロシア技術援助協会（The Society for Technical Aid to Soviet Russia; 以下，技術援助協会と略記）を，副次的には АИК-К を例に論じたソウヤーの研究がある[(7)]。失敗の原因は，クズバスからの離脱・帰還者およびマスコミの反クズバス・キャンペーンが煽り立てた「失敗」の物語り（ナラティヴ）ではなく，政策遂行者側にある，とソウヤーは捉え，ソヴェト指導者と現地要員との意思疎通の欠如（disconnect）を一因として取り上げている。しかし，（正式名称も使われていない）AOC に関しては実証は十分とは言えず（自身も引用しているルガスピのフォント 515 のクズバス関係史料も活用されておらず），本稿はそれをめざしている[(8)]。

ューヨーク事務所の日常業務に関する報告書, РГАСПИ, 515/1/4306/209-238; ③機関誌『クズバス』掲載の諸記事。

（6） W.Th. Smith, The Kuzbas Colony Soviet Russia 1921-1926. An American Contribution to the Building of a Communist State（Doctor of Arts in History diss., University of Miami, 1977）.

（7） B.W. Sawyer, “Shedding the White and Blue. American Migration and Soviet Dreams in the Era of the New Economic Policy,” *Ab Imperio*, 2013, No. 1, 65-84.

（8） 最近出た研究に以下がある。F. Jacob, “Transatlantic Workers’ Solidarity: The Kuzbas Autonomous Industrial Colony（1920-1926）,” F. Jacob/M. Keßler (eds.), *Transatlantic Radicalism: Socialist and Anarchist Exchanges in the 19th and 20th Centuries*（Liverpool University Press, 2021）. 本書は，全 270 頁ながら 2 万円を超えて大学出版会から出ている共著研究論文集である。近年急速に高額の学術書が出回るようになり，学術研究交流も金次第になりかねない現状に憤慨して，私はわずか 21 頁の当該論文を読むための購入を控えている（ただし，2024 年にペイパーバック版の出版が予告されている）。ネット上で公開されている 4 頁分を読む限り，独自の解釈を試みようとしているものの，АИК-К に直接関わる実証的研究（史料批判を含む）にはなっていないように垣間見られる。

第 1 章　活動開始に向けて

АИК-К の創設に向けての具体的準備は，すでにソヴェト・ロシア政府との正式契約を待たずに始められていた。1921 年 10 月 10 日に「CTO とリュトヘルス・グループとの契約の基本テーゼ」がようやくまとめられた（第 1 篇， 20），その 1 週間前の 10 月 3 日に АИК-К 発起人 5 名，つまりヘイウッド（議長），リュトヘルス，キャルヴァート，バイアー，バーカー（記録書記）はホテル「リュクス」で打合会を開き，議事録を残した [(1)]。それによると，1922 年 5 月 1 日までの半年間の 25 人分の予算案（ケメロヴォおよびナジェジンスク工場の調査に関連する予備作業分を含む）を組むことが動議され，可決された。人員はケメロヴォに 17 人，ナジェジンスク工場に 8 人をそれぞれ配し，前者にバイアー，後者にベルグを各責任者としての委任状を得ることにした [(2)]。予算総額は 5,000 万ルーブリで，うち 1,250 万を「中央」分とし，残り 3,750 万を各人 150 万ずつ分けることにした。

1921 年 10 月 21 日に CTO と АИК-К 発起人グループとの契約書が締結された（第 1 篇，25），その翌日に各発起人への信任状と指示が作成された。大半の文書に発起人 5 名の自署があり [(3)]，それらは発起人グループ内の話し合いに基づくものであろうが，以下の「クズバス年譜」の記述から見て，リュトヘルスに一定の権限が与えられていた。つまり，「私

（1） РГАСПИ, 626/1/13/214.

（2） ただし，1922 年 10 月 22 日付でヘイウッドが署名して委任した（РГАСПИ, 515/1/4303/5）ベルグについては，同年 12 月 1 日にヘイウッドが受け取ったロシア共産党中央委員会決議によれば，委任は望ましくないとのことで，その時点ではヘイウッドはその決議を受け入れている。РГАСПИ, 5/3/276/1. ベルグは 1907 年にラトヴィヤからアメリカへ移民し，（アメリカ社会党へ加盟することになる）ラトヴィヤ人合同組織に加入し，大戦中は同中央委員会に入り，（リュトヘルスも参加した）社会主義宣伝同盟にも参加した。ロシア 2 月革命後帰国し，ラトヴィヤ・ソヴェトおよびソヴェト・ラトヴィヤ軍に加わり，ソヴェト崩壊後ロシアへ後退していた彼は，機械工として妻とともにナジェジンスク工場へともかく向かうことになる。*Kuzbas*, Vol. 1, No. 4, 20.VIII.1922, 3; L. Dūma / D. Paeglīte, *Revolucionārie latviešu emigranti ārzemēs 1897–1919*（Rīga, 1976）, 253, 267-268, 309; cf. Smith, The Kuzbas Colony, 48.

（3） 契約書では経営委員会の設置が謳われていたが，当面の間その暫定委員会として組織委員会が（少なくとも 3 カ月間，長くてアメリカからの派遣第 1 陣到着後半年間の期限で）組織されることになった。*“Kuzbas” An Opportunity for Engineers and Workers. Prospectus*［hereafter cited as *Prospectus*］(New York, 1922), 31. 信任状・指令作成時には組織委員会はトム・マン（Tom Mann）とワトキンス（N. Watkins）を加えた 7 名で構成されていた（遅れてシャトフ〔В.С. Шатов〕が加わる）。彼ら 2 名の自著は（確認できた限りでは）ワトキンスのがキャルヴァート信任状にあるだけである。

〔リュトヘルス〕は，またニューヨークの組織委員会メンバーを解任する権限を持っていた。すべての当事者のために私によって簡潔な指令が作成され，J. バイアーは，すでにアメリカからモスクワに来ていた移民グループを率いて，ケメロヴォでの仕事，とりわけ〔入植者用〕住宅建築を準備することを委任された」[(4)]。

後半のバイアーについて先に述べておけば，彼には 1921 年 11 月 16 日に CTO 議長レーニン署名の以下のような委任状が出されている[(5)]。「同志バイアーはクズネツク炭田（ケメロヴォ）へ〔初代〕コロニー全権として出発する。以下の職務が委任される。すなわち，1) 地方の国家および公共機関〔シベリア革命委員会（シベレヴコム）など〕と，同様に生産者と緊密に接触すること」。以下，第 6 項まであり，第 2 項のアメリカからの入植者の受け入れ全般の急を要する任務だけでなく，契約書を実行に移す具体的な交渉なども挙げられていた。（以下は次篇で取り上げるが）それらの任務がバイアーにとって，いかに不慣れで困難であったことか。その操業準備期に現地関係機関が協力的であったとは言えない状況下で，なおさらそうであった。

バイアーに続いてケメロヴォに到着したヘイウッドは，1922 年 7 月 16 日に開かれた最初の全体集会において，CTO による自らの全権委任状を読み上げ，バイアーはもはや経営委員会〔厳密には，組織委員会〕メンバーではないと宣言し，そのことによってバイアーの責務からの解放が決議された。バイアーは 7 月 30 日付で CTO へ宛てて経営委員会からの辞任を正式に申し出た。その理由として彼は，①露語が使えず，②加齢（64 歳）を挙げていたけれども，③意外にも以下が「主な理由」であった。バイアーが問題にしたのは，自らの全権委任状が正式に取り消されておらず，経営委員会メンバーとしても再確認されているにもかかわらず，上記決議がなされたことである。そこには（詳細は省くが）〔1921 年 11 月 22 日の最終契約書に署名した 3 名のうちのひとりであった〕バイアーには諮らず〔残り 2 名の〕ヘイウッドと〔1922 年 6 月にオランダから戻って来たばかりの〕リュトヘルスがモスクワで会って話し合い，シャトフを加えての画策があった，とバイアーは疑念を抱き，そのような「現経営と自らが公的な資格で結びつけて考えられることを欲しなかった」ゆえに辞任を申し出たのであった[(6)]。それは活動態勢が整わない中でありうる話だが，画策とまで言えるのか，リュトヘルスにどのような考えがあったのか，今となっては確かめようがない。バイアーは同年 10 月 5 日の会議中に突然死を迎え，ヘイウッドも同月から 11 月にかけて外されて，新経営委員会が組織されることになる（次篇）。

続いて，信任状および指令内容を見ていくに際して，当事者間の比較照合を容易にするため一覧表にまとめ，次頁に掲げる。

（4） РГАСПИ, 626/1/6/8.

（5） “Организация Автономной колонии американских рабочих «Кузбасс» (1921–1923 гг.),” *Исторический архив*, 1961, No. 2, 87.

（6） РГАСПИ, 515/1/4301/1-5.

АИК-К 組織委員会メンバーへの信任状・指令一覧

キャルヴァートへの信任状 [7] （於アメリカ合州国）	リュトヘルスへの信任状 [9] （於オランダ）	ヘイウッドへの信任状 （於モスクワ）
・1921 年 10 月 21 日に CTO によって承認された АИК-К 組織委員会は，コロニーのための組織者としてアメリカに行くことを指示する。 ・1922 年春にアメリカ労働者・専門技師とともにロシアへ戻る予定。	・1921 年 10 月 21 日に CTO によって承認された АИК-К 組織委員会は，組織作業のためオランダに，場合によってはアメリカに行くことを指示する。 ・1922 年春に彼の家族と彼の書記ブロンカ・コルンブリット（Bronka Kornblitt），そして他の労働者・専門技師とともにロシアへ戻る予定。	〔未見〕
キャルヴァートおよびバーカーへの指令 [8]	**リュトヘルスへの指令 [10]**	**ヘイウッドへの指令 [12]**
・出来るだけ早く US[A]へ行き，組織委員会のために名前が挙げられていた人物と連絡し合い，本組織体を少なくとも 2，3 週間内に創設する。 ・委員会は議長と会計係を指名し，後者は組織基金 5,000 ドルを管理する。この基金から両者は旅費等を含む生活費を賄うためにそれぞれ 1,000 ドルを受け取る〔cf. 第 1 篇, 14〕。 ・両者はオランダ，アメルスフォールトのリュトヘルスに報告書（写し）を少なくとも隔週で送る。もう 1 つの写しはヘイウッドに郵送され，3 つ目は NY のリュトヘルスの私的代理人〔右記参照〕に転送される。その代理人はすべての情報を受け取る権利があり，両者はすべての議事録を彼に知らせ続ける。 ・委員会はロシアへ送られる労働者と専門技師の質に責任がある。最大限の資格と道徳性を持ち，現在実際に働いている人だけが契約される。 ・道具類の購入資金は会計係によって集められる。個人の装備・食糧は委員会の監督下で個人ないし集団で買われる。 ・ソヴェト・ロシアの支出を減らすために，アメリカでの追加資金を調達する努力が払われるべきである。	・オランダに行き，アメリカとモスクワとの間の連絡役を務め，遅滞なく両方へ書簡・文書を伝達する；イギリスのトム・マン，ワトキンスと連絡し合う；キャルヴァート，バーカーのアメリカ〔組織〕委員会およびヘイウッドへの助言役を務める。 ・アメリカへ行くことが必要だと自らが考えるならば，オランダに 1 代理人を残して訪米する。オランダにいる限り，アメリカに個人の代理人を指名し，その代理人は委員会のキャルヴァートらからすべての必要書類を受け取り，助言役を務める（特にソヴェト当局の主張や意見の解釈に関する限りにおいて）[11]。 ・アメリカ委員会の提案で，リュトヘルスは時にオランダかドイツで一定の資材を購入するか，あるいは，そこで労働者と契約する。しかし，アメリカ委員会が十分募集し，すべての必要な資材を調達するのに十分責任が持てるならば，それには及ばず。アメリカ委員会に直ちにか，可能ならば事前に知らせて，少人数の入植者をヨーロッパから募集する権利を持つ。アメリカからの特別な承認なしでは，この数は 25 人以上であるべきではない。 ・電報代，旅費等の費用のために 500 ドルを受け取り，そのことをアメリカの会計係に説明する。	・ヘイウッドはモスクワ・ユニット〔支部〕を代表し，ソヴェト当局および機関との接触に責任がある。 ・クズバスと外の世界との関係を築く。全情報を直ちに以下に送付しなければならない。シブレヴコムの急使を通じて隔週でシベリアへ書簡を送る。ピャトニツキー（О. Пятницкий）もしくはゴーベルマン（Gobermann）を通じて K〔コップ（В.Л. Копп）であろう〕のためにベルリンのロシア大使館宛書簡も。必要ならば，急使利用のために CTO の許可を得なければならない。 ・農業用機械類を集め，修理することを，信用貸しでシブレヴコムを通して現金化された資金によって管理・調整する。 ・CTO へ予算案を提出し，資金を受け取り，管理する。 ・クズバスに関する最高国民経済会議（ВСНХ）の管轄事項について，スミルガ（И.Т. Смилга）の部局と連絡し，ナジェジンスク工場については，マルテンス（Л.К. Мартенс）の部局を使う。輸送のためにはトロツキーの部局に連絡する。共産党との連絡は，中央委員会のモロトフ（В.М. Молотов）へ尋ねる。CTO へはゴルブノフ（Н.П. Горбунов）へ，あるいは秘書フォチエヴァ（Лидия А. Фотиева）を通して電話をかける。 ・シブレヴコムの〔モスクワ〕事務所に机を持ち，12 時から 14 時まで毎日そこに常駐する。ロシアでの広報・宣伝を担当する。 ・ソヴェト諸機関，広報等の相談役としてボロディン（М.М. Бородин）を考える。 ・自らの活動をリュトヘルスへ少なくとも隔週に写しで報告し，もう 1 つの写しをアメリカに送付する。またバイアーとベルグにロシア外で進んでいる作業を知らせ続ける。

この一覧から見えてくる顕著な特徴は，オランダのリュトヘルスを中心に，アメリカのキャルヴァートらとモスクワのヘイウッドを両翼に配し，リュトヘルスが両翼の連絡・助言役を務める態勢である。とりわけ，自ら望んだアメリカ行のヴィザが下りなかった[13] リュトヘルスは，アメリカに代理人を指名し，AOC との接触を密にすることをめざしている。その接触も含めてアメリカでの任務は，（成否は問わず）ほとんど実行に移されていく。その一方で，モスクワでの任務は，様々で盛りだくさんすぎる。その適任者は（АИК-К 創設決定に至る経緯から見ても）有能な書記兼通訳のブロンカ・コルンブリットを伴ったリュトヘルスしかいなかったであろうが，彼が国外へ向かうため，それらの任務は残されたヘイウッドに割り当てられるしかなかったろう。バイアー同様，英語しか通用せず，その方面の実務に疎いヘイウッドが，どの程度任務をこなせたかは甚だ疑問で，彼のアルヒーフにも関連する史料はほとんど見当たらない[14]。

それら委任状と指令を受けた翌々日の 10 月 24 日の晩にリュトヘルスはリーガ，ベルリン経由でオランダに向かい（第 1 篇， 25），一足先にキャルヴァートとバーカーもダンティヒ経由でアメリカに向かった。リュトヘルスは（同行したブロンカがヴィザ取得のためにリーガで遅れ），ひとりベルリンに到着した 11 月 5 日に，ダンティヒからオランダ経由で送られたキャルヴァートの書き付けを受け取った。翌 11 月 6 日にリュトヘルスは「ハ

（7） РГАСПИ, 515/1/4306/197; 626/1/13/157; 626/1/13/11. バーカーへの信任状は未見。

（8） РГАСПИ, 515/1/4306/189-190; 626/1/13/12-13.

（9） РГАСПИ, 515/1/4303/8; 626/1/13/205.

（10） РГАСПИ, 515/1/4307/13; 515/1/4306/192; 626/1/13/14.

（11） 実際にリュトヘルスはアメリカ行の旅券を申請したが，得られず，個人的な代理人にハイマン（J. Heiman）を指名した。РГАСПИ, 626/1/6/8.

（12） РГАСПИ, 515/1/4296/48; 515/1/4306/194-195; 626/1/13/15-16. ヘイウッドへの信任状は未見。

（13） 1918 年 4 月 19 日，リュトヘルスは（革命ロシアでのソヴェト共和国建設に参加しようとして）家族とともにシアトル経由で日本に向かってニューヨークを発った。その理由は，戦時下で本国との通信が検閲の対象となるなどして，彼がアメリカ政府諸機関によって社会主義者として，かつ技師として二重の嫌疑をかけられ，逮捕が間近いとの情報を得たからであり，そのことがヴィザ取得を困難にした。山内昭人『リュトヘルスとインタナショナル史研究』（ミネルヴァ書房, 1996）, 265-271.

（14） モレイは以下のように記している。オランダからニューヨークとモスクワ間の連絡役を務めたリュトヘルスは，行動するのに重要な両都市，いずれからも離れすぎていて，その半年間にクズバスの運命を変える出来事が起こっていた。もしも彼がどちらかの都市で助力したならば，それらの出来事に異なる形を与えたかもしれなかったろう，と。Morray, *Project Kuzbas*, 72. 今となっては，いささか安易にすぎるその仮定の前に，（本稿が試みているように）リュトヘルスが実際どこまで遂行していたのかを具体的に押さえる必要があろう。

ーヴァート〔・キャルヴァート〕」宛に返書を出した[15]。以下がその抜粋である。

イギリスでの我々の行動はしばらくの間休止して，まず US に集中しなければならないだろう。イギリス炭坑夫グループは，私の考えでは，アメリカ炭坑夫グループが作業を始めたあとにだけ来るべきだ。

ヘラー（A.A. Heller）は今リーガにいて，2，3 日中にニューヨークに直行するだろう[16]。彼はアメリカで〔派遣〕グループを組織するためにボグダーノフ（П. А. Богданов）〔議長〕によって署名された BCHX〔アメリカ代表〕の信任状を持っている。〔ヘラーが監督することになる技術援助協会と〕どうか衝突を避けるようにしてもらいたい。彼は私に同様のことを約束した。

あなたは私に規則的に，特に委員会の形成について知らせよ。あなたは偉大なトム〔・マン〕や他の友人たちとアメリカで会ってもよいが，大いに話さないように，そして約束したり，あまりに明るく描かないように注意してもらいたい。

私は彼〔ベルリンで協力を申し出るために近づいて来たストクリツキー（Stoqlitski［*sic*］）〕に，我々は宣伝家を欲しておらず，そっとしておいてほしい，と書いた。私は参考までにその書簡の写しを加えよう。

その写しをリュトヘルスは同日に〔週末，つまり 11 月 12 日土曜日にはオランダの自宅にいることを期待するとの〕短信とともに “C[alvert].” に送った[17]。その中の以下の文章は，リュトヘルスが繰り返し強調することになる方針だった。「我々が欲するのは，実際の労働者である。……／我々は我々の企業の純粋に経済的性格を強調しなければならない。唯一政治的な特徴は，ソヴェト・ロシアをその経済を通じて強化することである」。

リュトヘルスは，キャルヴァートの 1921 年 11 月 29 日付書簡が 12 月 10 日に自宅アメルスフォールトに届いた，その翌 12 月 11 日に以下抜粋する返事を出した[18]。

これは良いニュースだ。〔CP（共産党）系の〕技術援助〔協会〕が使えるならば，多くのトラブルと仕事を省けるだろうし，我々の組織委員会はそれでも決定的な発言力を持つだろう。そのことは様々な分子（IWW，CP など）を結びつける利点を有し，あれやこれやの政治的影響による支配を回避する好機を与えるだろう。

私は IWW 組合員の大半が，たとえ専ら彼らの手中にある企業でもそれがありえないことを我々が明らかにするとしても，友好的で熱狂的な態度を取るであろうことを希望し，かつ信じている。彼らは彼らの原則の 1 つを試し，実現する機会を捕えるだろうし，彼らのいく人かの指導者の小事〔次章〕へのこだわりは彼らを引きとどめな

（15） РГАСПИ, ?/?/?/5-7［フォント番号等は記載漏れ］, reprinted in: Kemerovo Oblast Museum of Regional History and Folk Life, Kemerovo (http://hdl.loc.gov/loc.ndlpcoop/mtfxtx.wkm0033).

（16） ヘラーの帰米前ロシアでの行動については，cf. 第 1 篇, 13.

（17） РГАСПИ, 626/1/13/2, 3.

（18） РГАСПИ, 626/1/13/18.

いだろう。

ここには，アメリカでの組織化に関して厄介な CP および IWW との関わり方に関するリュトヘルスの立場がよく示されている。

以上，リュトヘルスとキャルヴァートとの通信による活動前夜の打ち合わせを経て，年が明けるやいなや，訪米したキャルヴァートとバーカーによるアメリカ組織委員会設立へ向けての活動が開始される。

第 2 章　設立に向けて

1922 年 4 月 2 日の AOC 会議（後述）で議長キャルヴァートは，これまでの活動経過報告を求められ，以下議事録から抄訳するように語った [1]。

> アメリカ到着後，我々〔キャルヴァートとバーカー〕は最初に CP のキャノン（J.P. Cannon）[2] に会った。キャノンはクズバス・プロジェクトに熱心なように思え，〔訪米を前にモスクワで発起人グループ内で事前に作成された AOC〕委員候補者リストから 2 名を除くことと IWW のハーディ（G. Hardy; プロフィンテルン本部から資金提供を受けて IWW 内の情宣活動をしていた [3]）に会うことを提案さえした。IWW の方はクズバスを支持するものと我々は確信していたが，同総執行委員会が正式に後援することを拒絶したので，ハーディが党派争いに巻き込まれかねないと思い，彼と会わないことにした。我々は予期しなかった諸困難に遭遇し，その中の党派争いは委員候補者を分裂させさえした。

その経過報告は掘り下げられたものではなかったけれども，いかに「党派争い」（factional fight/strife）が深刻であったかを窺い知るには十分であった。本章では AOC の CP（関連組織である技術援助協会を含む）および IWW との交渉を軸に AOC 設立の経過を追いながら，そこから見えてくる問題を論じていく。

1922 年 1 月 2 日，クズバス発展のための AOC の予定メンバーの初会合がニューヨークでもたれた [4]。議長は CP の指導者 “C.” ことキャノンが務め，まず上記候補者リストに挙げられた人たちが委員を受諾するかどうかが，その理由も含めて問われた。期待されていたキャノンは，AOC を助けたいが，自らの参加は CP を巻き込むことになり，AOC が CP と同化することはたぶん委員会の仕事を妨げるであろう，と否定的であった。フィンラン

（1）　РГАСПИ, 626/1/13/219.

（2）　非合法のアメリカ共産党の指揮下で合法政党，アメリカ労働党が創設されることになる大会が 1921 年 12 月 23-26 日に開催された。その議長を務めたのがキャノンであり，彼は後述するオウエンズ，ローレらとともに労働党中央執行委員会メンバーとなる。Th. Draper, *The Roots of American Communism*（New York, 1957）, 341-342, 450.

（3）　山内昭人『第 3 インタナショナルへの道 ── リュトヘルスとコミンテルン創設 ── 』（九州大学出版会, 2021）, 378.

（4）　РГАСПИ, 626/1/13/[214a-214a об.]; 515/1/4297/2-2 об.（後者は氏名が姓の頭文字だけになっている別版）; cf. Morray, *Project Kuzbas*, 78-79. 議事録の末尾には，キャルヴァート夫人メリーが記録書記として署名している。彼女は以後，有能な書記として事務文書作成を任される。

ド人で英語を良く話せないムラリ（M. Mulari）は，同国人の中での仕事であるということで了承してもらった〔が，実際にはそれにとどまらない役割を担うことになる〕。

続いて，リュトヘルスの代理人ハイマン[(5)]によって，クズバス〔事業〕の意義等について各自の意見が求められた。キャノンは，その成功は疑わしく，失敗もありえることから CP はいかなる責任も負えない；クズバスへの入植者は大規模に IWW から補充されることが予想され，ソヴェト・ロシアに反対する組織に同化しうる彼らを派遣する見識を疑う，とまで発言した[(6)]。

キャルヴァートは IWW から大多数を募ることは予期していないと反論したが，折悪しく 3 週間前の 1921 年 12 月 10 日に IWW 総執行委員会は，1921 年 7 月 3-19 日のプロフィンテルン創立大会に出席したウィリアムズ（G. Williams）の報告を受けて，「赤色労働組合インタナショナルに決して加盟しないことを勧める」声明を出したばかりであった。それはプロフィンテルン創設を主導したコミンテルン，ひいてはロシア共産党が，改良主義的労働組合〔アメリカの場合だとアメリカ労働総同盟（AFL）〕へ IWW 組合員は加入し，その中で急進的労働運動を推進すべきであるとの方針を立て，それに反対する IWW の政策・戦術を非難したからであった[(7)]。

キャルヴァートとバーカーは,プロフィンテルンに賛成か反対かは重要な問題ではなく，階級意識のある技術者を得ることが大事で，ロシアの経済・産業の不景気は深刻で，直ちに派遣することが必要だ，と発言したが，会議は以下の了解をもって継続審議となった。つまり，キャノンと同じく CP のオウエンズ（E. Owens; ほとんどの史料で “s” が抜けている）には〔せめて〕彼らの道徳的支持を得るために技術的詳細や案が与えられることになった。もっとも，後者は計画について非常に熱狂的である，と記され，実際に彼は参加することになる。

---

(5) ハイマンのリュトヘルスとの緊密な関係は，以下のアメリカ陸軍省軍情報部報告にあるように，入露前の在米中に築かれていたことが垣間見られる。つまり，1918 年 4 月 19 日リュトヘルス一家のニューヨーク市グランドセントラル駅から旅立とうとする報告に続いて，ハイマンはリュトヘルスが不在となった後始末を依頼されたとの報告がある。Correspondence of the Military Intelligence Division of the War Department General Staff, 1917-1941, RG 165, File No. PF8178-4, National Archives and Records Administration（Washington, D.C.）; cf. 山内『リュトヘルス』，270-271.

(6) ちなみに，1922 年 5 月 10 日にキャノンを乗せた「ラトヴィヤ」号がソヴェト・ロシアへ向けてニューヨーク港を出航した。乗船に際して彼が虚偽の申告をした旅行目的は，皮肉にも，想定される「クズバス」入植者との交流であった。B.D. Palmer, *James P. Cannon and the Origins of the American Revolutionary Left, 1890-1928*（Urbana/Chicago/Springfield, ［2007］2010）, 152.

(7) “Statement by General Executive Board,” *The First Congress of the Red Trade Union International at Moscow, 1921. A Report of the Proceedings by Geo. Williams, Delegate from the I.W.W.*（Chicago, n.d.）, 55-60; cf. Morray, *Project Kuzbas*, 74, 76; 山内『第 3 インタナショナルへの道』，300-301.

翌 1 月 3 日にキャルヴァートとバーカーが技術援助協会の会議に出席した。同協会は，キャルヴァートらと一緒に働くことを歓迎したが，しかし在米ロシア人の支持，助力，参加を得るためにクズバスの状態，将来の見通し，利点などの概略を述べる趣意書を起草することを助言した [8]。

1922 年 1 月 21 日，AOC は技術援助協会から転貸された部屋にようやく事務所を設け（Room 301, 110 West 40th Street, New York City），そこでの会議で以下を指名・選出した。議長キャルヴァート，会計係コスグローヴ（P.P. Cosgrove），副議長ムラリ，臨時書記メリー・キャルヴァート，広報責任者バーカー。小切手のサインについては，すべて議長と会計係が行うことにした（途中からの変更あり〔後述〕）[9]。

同会議で，上記趣意書の本文が読み上げられ，一部変更され，些細な事項が挿入され，そして受諾されて，印刷所に印刷費のため提示されることになった。その（申込アンケートを兼ねた）クズバスへの派遣技師・労働者募集のための趣意書（*Prospectus*）は 2 月 8 日に英語，露語，リトアニア語，フィンランド語の各版で発行された [10]。

上記 CP の両名の受諾が得られない状況について，リュトヘルスは 1922 年 2 月〔15 日もしくはそれ以後〕に “C[alvert]” と “B[arker]” に宛てて，以下のように両名の参加の重要性を説く書簡を送った [11]。「私〔S.J.R.〕はキャノンとオウエンズに出した書簡の写しを同封する。あなた方は彼らの名前をあなた方の最新の書簡〔複数〕の中で言及していないが，私は彼らが〔CP の〕服務に反していると結論づける。このことを私は不得策だと考え，大きな遅滞と困難を意味するだろう。私はあなた方の困難を十分に理解するが，しかし我々は，M[oscow].でも信頼を得る強い委員会を持たなければ，進むことはできない」。

その同封された両名宛 2 月 15 日付書簡（写し）で，リュトヘルスは込み入った話をしているので，以下，抄訳ないし要約しながら長く引用させてもらう [12]。

> キャルヴァートとバーカーによる報告および一部 “Julius H[eiman].” による書簡から，私〔リュトヘルス〕は以下の印象を抱いている。つまり，あなた方〔キャノンとオウエンズ〕は最初は「クズバス」計画に熱狂的ではないとしても大いに共感を抱いていたが，しかし私の知る限りで，以下手短に述べる反対を徐々に展開した。／つま

（8） РГАСПИ, 515/1/4307/15.

（9） РГАСПИ, 626/1/13/215;（別版）515/1/4297/1. アイルランド人で共産主義者のコスグローヴは，1922 年 4 月 2 日の AOC 会議で自らがなぜ候補者リストに載ったかというハイマンからの質問に答えて以下のように語っている。大〔靴工〕組合を代表し，プロフィンテルンを支持し，また個人的にラデク，レーニン，ブハーリンらと会ったことがあるから，と。

（10） 初版 1 万部はすぐに捌けて，改訂版が作成されることになる。*Kuzbas*, Vol. 1, No. 2, 20. VI.1922, 10; No. 3, 20.VII.1922, 5. スミスによれば，マジャール語も。Smith, The Kuzbas Colony, 89.

（11） РГАСПИ, 626/1/13/9 (retyped copy).

（12） РГАСПИ, 626/1/13/9-9 об. (retyped copy).

り，ソヴェト国営企業「クズバス」は党の業務にされるべきではない。我々〔キャノンとオウエンズ〕が必要としているのは，自分たちの活力と技能で優位に立つであろうような正しい実践的なタイプの多くの革命家である。このタイプは，知識人が CP の大半を占めるので，CP 外部にもまた見出されうるであろう。しかし他方では，ある程度の数のアメリカ共産主義者がクズバスで正しい精神を維持するために必要であろうし，悪い分子がロシアに来ることを防ごうとするならば，AOC の中にいく人かの最良の共産主義者が入ることは絶対に必要である。その点だけでなく，他のあらゆる点でも，CP はアメリカでもソヴェト関係機関を全面的に支持するだろう。

〔要するに，キャルヴァートらの提案に対しては CP は「クズバス」事業を党の業務にすべきではないが，AOC をソヴェト当局を背景とした CP 主導の組織にすることには反対していない。以下，リュトヘルスによる反論が続く。〕

いく人かの著名な CP 党員の参加が「クズバス」事業を党の業務とするとの主張は，有効ではない。当局とトラブルがあった場合，当局によって事業続行が妨げられる危険性があるだろう。しかし，共産主義者の活動的で熱狂的な支持なしの企業は想像できない。IWW の一定の分子もまた重要な役割を果たすことができるであろうが，しかしその組織の公式の反対の態度〔上記 IWW 総執行委員会声明〕は，我々が二重に注意深くあらねばならないことを意味する。あなた方は〔IWW の〕“C” と “B” の或る性質に反対であることは大いにありうる。我々は彼らの短所を知っているが，しかし彼らは誠実であると考え，クズバスに打ち込んでおり，ヨリ大きな委員会の一部として非常に役に立つであろう。まさにその理由でモスクワは 5 ないし 7 人のメンバーが加えられるべきだと決定し，あなた方 2 人を含む 7 人の名前に賛成した。

もしもあなた方が〔委員候補者〕リストに挙げられている名前がよくないと考えるならば，我々はそれらを再考できる。（私はレーニンによって署名された個人的な権限委任状（mandate）を持っており，それは私をして組織委員会メンバーをソヴェト・ロシアのために罷免することを可能にする。）もしもあなた方のどちらかが務めることが肉体的に不可能ならば，我々に代理人を推薦せよ。しかし，是非とも素速く行動し，“Julius H.” に相談せよ。彼は必要な場合，私に打電することができる。キャルヴァートは委員会の議長になるべきではなく，背後にいるべきで，実際の組織化と技術的な仕事をすべきである。

以上，CP であれ IWW であれ，いずれの有能なメンバーの参加も熱望する一方で，どちらかの組織が主導権を握ることは極力避けようとするリュトヘルスの姿勢が窺われる。キャルヴァートの議長不適任は，リュトヘルスがしばしば言及することだが [13]，本文脈から推測するに，キャルヴァート自身も認める議長でありながら業務出張しすぎる面だけでなく，AOC 内の両組織のバランスも考慮に入れてのリュトヘルスの考えだったのかもしれない。なぜならば，（下記でも取り上げる）バーカー宛 3 月 23 日付返書の中でリュト

（13） ブロンカ宛の 1922 年 3 月 8 日付書簡でも「キャルヴァートはあまりに業務出張する人すぎる」とこぼしていた。РГАСПИ, 626/1/6/10.

ヘルスは，「ヨリ穏やかなタイプの議長が役に立つであろう。ボールドウィン（R.N. Baldwin; 著名なリベラリストで，アメリカ市民自由同盟〔自由人権協会〕の創設者）でさえ好ましいであろう」という突飛とも思える考えも記しているからである[14]。

なお，下線部の重要事項に関して，“C” と “B” へ転送する際に（両者も初めて知る事項だったからであろう）リュトヘルスは以下の追伸を添えていた。「言及されたその権限委任状を私はあなた方の出発後，モスクワを発つ日に得た[15]。あなた方が組織委員会メンバーに反対する場合，最初に私に訴えることができる。もちろん最終決定は CTO によってであろうが」。

この AOC の委員構成の問題に関するハイマンからの報告内容を，リュトヘルスは（ベルリンに滞在して資材購入等の段取りをつけていた）ブロンカへ 1922 年 2 月 24 日付書簡で，以下のように伝えている[16]。

> 組織委員会はまだ前進していない。リストに挙げられていたキャノンは計画には反対だし，オウエンズには時間的余裕がない〔後述のように，間もなくシカゴに移る〕。すべての企てが（プロフィンテルンとコミンテルンに敵対している）IWW の手中に入るのは危険だ。リストに挙げられていなかったが，会計主任になったコスグローヴは共産主義者だが，反対派に所属している。キャルヴァートとバーカーの書簡によれば，ヘイウッドとバイアーに対する反対意見がある。キャルヴァートとバーカーは，キャルヴァート夫人[17]とムラリの参加も提案している。後者には IWW の原理原則への強い共感がある。私〔リュトヘルス〕は〔その報告に対して〕なお 2 共産主義者と 2 技術系スタッフを加入すべき，と打電した。

IWW 執行部にはクズバス・プロジェクトへの不信感が強く，その協力が得られなかった理由は，上記 1921 年 12 月 10 日付声明だけでなく，保釈中のヘイウッドが 1921 年 3 月末日か 4 月初めに突如ソヴェト・ロシアへ逃亡して来たことにより，IWW 組合員および共鳴者から苦労して集められた多額の保釈金（公債）が没収され，募金に協力した人々（およびヘイウッドと同じ罪で服役することになった同志たち）の信頼を裏切ったことにある。

（14） РГАСПИ, 515/1/4307/24-25.

（15） 『リュトヘルス伝』には，出発 30 分前にクイヴィシェフ（В. В. Куйбышев）から以下のような電話があったとある。「我々はあなたの提案に賛成する。あなたの全権は承認されている」。G.C. Trincher Rutgers/K. Trincher, *Rutgers. Zijn leven en streven in Holland Indonesië, Amerika en Rusland*（Moskou, 1974）, 113; Г. Тринчер/К. Тринчер, *Рутгерс*（Москва, 1967）, 107.

（16） РГАСПИ, 626/1/6/9-10; Trincher Rutgers/Trincher, *Rutgers*, 114; Тринчер/Тринчер, *Рутгерс*, 108.

（17） この引用は「クズバス年譜」からのもので，直後に「（彼女は私によって拒否された）」との挿入があり，秘書として有能な同夫人をリュトヘルスは受け入れておらず，彼のキャルヴァートへの低い評価との関連性があるかは不明。

プロジェクトを大歓迎していた[18] メアリ・マーシィ（Mary E. Marcy）は，自宅を担保に資金を提供していたため大損害を被ったことにより 1922 年 12 月 8 日に自殺に追い込まれることになる[19]。

IWW 執行部の態度は同総書記兼会計係のグレイディ（J. Grady）による AOC 住所のスカイラー宛 1922 年 8 月 11 日付書簡および同じくスカイラー気付ヘイウッド宛 8 月 31 日付書簡に如実に示されている。つまり，責任は逃亡を準備したアメリカ共産党およびソヴェト政府にあるのであって，同政府が企て，自らの管理下にあるかもしれないクズバス企業を支援するためには，両者による保釈金損失の弁償こそが先決であった[20]。

無著名（ただし「モスクワ，ホテル・リュクス 12 号室」とある），日付なしだが，内容から 1922 年 4 月末か 5 月初めにヘイウッドがバーカーとキャルヴァートに宛てた書簡は，以下の文章で終わっている[21]。「『WH[aywood] はひどく攻撃されている』とは，まさにどういう意味か。……私〔ヘイウッド〕は新聞雑誌を読み，多くの書簡を受け取ってきているが，あなた方が言及する好ましくない論評について何も聞いていない」。

ここにはヘイウッド自身，CP の支援で非合法的に逃亡したことが IWW 執行部にとってどれほど深刻なダメージを与えたかについての自覚が乏しかったことが，如実に示されている[22]。

（18） РГАСПИ, 626/1/6/10.

（19） 自殺したメアリ・マーシィの追悼記事が『クズバス』に載った。*Kuzbas*, Vol. 1, No. 8, 20.XII.1922, 3. 「同志マーシィはクズバスを忠実に支持する友人であり，その組織をあらゆる方法で可能にすることを支援し，そしてクズバスが……プロレタリア専門技術者の発展のための広大な実験場であろうことを信じていた」。彼女が夫レスリー（Leslie Marcy）とともにスカイラーに宛てた 1922 年 8 月 28 日付書簡を見ると，夫妻による助言は以下のようにヨリ現実味を帯びていた。「諸君は，産業が政治的職員によって管理されるたびにいかなる進歩的な事も遮る人々が常にいるであろうことを知るべきだ。……諸君が物事をスムーズにいくようにする時，諸君は政治家たちに取って代えられるであろう，と私は絶えず恐れてきている」。РГАСПИ, 515/1/4299/148.

（20） B.D. Palmer, "'Big Bill' Haywood's Defection to Russia and the IWW: Two Letters," *Labor History*, Vol. 17, No. 2, Spring 1976, 274-278; cf. M. Dubofsky, *'Big Bill' Haywood* (Manchester, 1987), 134-135, 178［邦訳, 久田俊夫訳（批評社, 1989), 179-180, 218-219］.

（21） РГАСПИ, 515/1/4299/415-415 об.

（22） リベラルな『ネイション』誌においても，両名の逃亡問題が暗い影を落としていたと見られる例があったことを付記しておく。1922 年 6 月 14 日の『ネイション』に CTO とリュトヘルス・グループとの契約書の英語版がアメリカで初めて公表された。*The Nation*, Vol. 114, No. 2971, 14.VI.1922, 730-732. ただし，5 名から成る同グループのうち，ヘイウッドとバイアーの名前が本文中 2 箇所で抜けていた。本文は最終露語版を英訳し直したとの編注があるが，もとより露語版で抜けるわけはなく，明らかに英訳編集作業中の削除である。ガルキナはクズバス・プロジェクトが著名な IWW 指導者との関係を強調しない思惑がそこにはあったと推測している。Л.Ю. Галкина, *Автономная индустриальная*

ようやく 1922 年 2 月末までに 9 名から成る AOC 委員が確定し，3 月 3 日に AOC 会議が開かれた [23]。出席者は①キャルヴァート，②バーカー，③ムラリ，④コスグローヴ，⑤スカイラー，そして代理人のハイマンである。キャルヴァートによって以下の非公式に活動するメンバーが追加された。⑥キレン（C. Killen），⑦リース（Th. Reese），⑧ボールドウィン，そして⑨オウエンズ〔ただし，CP 党員であるオウエンズを除く 3 名とスカイラーは当初の予定候補者でなかったために CTO の承認を求めることになる〕[24]。

ハイマンの提案で，“S.J.R.” への暗号電文を起草し，リュトヘルスに満足のいく委員が集められたことを伝え，あとで〔3 月 8 日〕関連文書を彼に郵送し，それはモスクワへ急使によって直接送られることになった。

続いて，入植者募集の遊説旅行を企てることになり，遊説中に起こるあらゆる実際問題に対して非党派的態度（a non-partisan attitude）を取ることとした〔この遊説に関する態度は，4 月 1 日の AOC 会議（後述）で組織運営の基礎とし，すべての決定はクズバス企業の経済的・工学技術的要求に基づいて下されることが，満場一致で採択される〕。早速，翌 3 月 4 日にコスグローヴとムラリが発つことになり，前者には 2 週間分 70 ドル，後者には（フィンランド人に対してだけの遊説で）1 週間分 35 ドルが直ちに支払われた [25]。

колония «Кузбасс»（Кемерово, n.d.［2011］), 40. けれども，後述するウッドの最初の紹介記事において，ヘイウッドが関わるプロジェクトであることは紹介済みであり，バイアーも抜け落ちていることから，両名が IWW 裁判の保釈中に法を犯してロシアへ逃亡したことがプロジェクトに対して招きかねない余分なトラブルを避ける思惑があったのではないか。

（23） РГАСПИ, 626/1/13/216; cf. Morray, *Project Kuzbas*, 84, 85.

（24） キャルヴァートとコスグローヴは，外部に向けてクズバスを宣伝し，労働者・技師を派遣リストに入れるために鉱工業地帯に入り込んでいく。スカイラーは，当初クズバスの総支配人に目され検討されていた（РГАСПИ, 626/1/13/18）スコット（H. Scott; 急進的な社会派技師で IWW と関係があった）に代わって選ばれた能率技師であり，ガント（H.L. Gantt; ガント日程管理図表の考案者）と一緒に働いた経験があり，大戦中アメリカ政府関係の軍需生産委員会にいた。2 月 11 日から労働者派遣，装備等に伴う技術問題を担当。キレンはデトロイトの電気工で，IWW 系電気労働者組合に所属。リースはイリノイ州グラニットシティの金属版工で，1923 年明けから AOC 代表となる（次篇）。オウエンズは早くも 6 月にシカゴへ移り，活動から離れていく。

（25） ここで，AOC スタッフを給与で雇えない台所事情について付記しておく。メンバー自身の仕事も原則ヴォランティアであり，上記非公式活動メンバー 4 名は定職があるか，政治的にどこかに雇われているかだが，AOC のために彼らの空き時間の多くを割くことになる。РГАСПИ, 515/1/4296/18. 派遣労働者から提供される資金も派遣事業以外の使途は認めなかった。ただし，遊説旅行に限って週 35 ドル払うことにした。РГАСПИ, 515/1/4307/24-25. 4 月 1 日の AOC 会議でのスカイラー報告によれば，事務経費は最初の月は効率的に働いたとしても約 1,500 ドルかかり，以後職員は無給でも月 500 ドルになるであろうとのことだった。РГАСПИ, 626/1/13/218.「クズバス物語」（第 1 篇，3）によ

上記電報を受け取ったリュトヘルスは，すぐに AOC 用経費 1,500 ドルをハイマン宛に送った。キャルヴァートとバーカーがモスクワを発つ際，〔赴任旅費として〕各 1,000 ドルを得ていたので，全体として 5,000 ドルが組織のために承認されたことになり，呉々も倹約に努めるようにとリュトヘルスは伝えている[26]。

1922 年 3 月 7 日には無署名だが AOC の活動報告書簡がリュトヘルス宛に送られた[27]。冒頭にはニューヨーク『ワールド』などマスコミでの積極的な紹介があるものの[28]，ほぼ 2 カ月間の報告にしては詳しくなく，上記 9 名のメンバーが報告され，都合がつき次第すぐに AOC の全員会議を開くであろう，と記され，未だ全員会議も実現していなかった。

続いて，「あなた〔リュトヘルス〕の書簡から，我々が組織委員会を仕上げていないことについてあなたは少し批判的であったと思うが，しかし」と著者は上記のキャノンらと

れば，フルタイムで活動していた 5 名のメンバーには，食糧と住居のために常勤労働者の給料の半分以下だが，さすがに支給されていった。РГАСПИ, 515/1/4306/50.

（26） РГАСПИ, 626/1/6/10; cf. 第 1 篇, 14, 24.

（27） РГАСПИ, 5/3/246/54-55.

（28） 1922 年 2 月 12 日，ニューヨーク『ワールド』日曜版に編集者ウッド（Ch.W. Wood）の記事が載る。*The (New York) World*, 12.II.1922, Editorial Section, 1. 大見出しには「H.S. キャルヴァートの一大産業事業／かつてフォード工場の労働者だった彼がニュージャージィ州よりも広大なロシア領土を開発することに従事してきている」とあり，「万一 H.S. キャルヴァートが次の 10 年間の世界史の中心人物になるだろうと今わかったならば，どんなだろう？　それは完全にばかげた考えだが，しかし諸君はその話を聞くまで待ってほしい。諸君はキャルヴァートが誰かを知らない」と書き出され，そして大きな似顔絵とともに彼の誇大気味な紹介が続く。キャルヴァートのインタヴュー中の発言も一部引用されているものの，記事は肝心のクズバス・プロジェクトの内容が十分に伝わるものとはなっておらず，むしろ他の事業推進者ではヘイウッドとトム・マンだけしか紹介されず，「リュトヘルス氏は目下病気で，オランダに帰国しなければならず，キャルヴァートがひとりでアメリカにやって来た」（強調引用者）との一文もあるように，IWW の事業であるかのような印象すら与えかねないものだった。

翌 3 月の『リベレイター』誌にはゴールド（M. Gold）の「求む，シベリアのための開拓者を！」が載る。*The Liberator*（New York）, Vol. 5, No. 3 [Serial No. 48], 5-8. 最初に 6,000 人のアメリカ人開拓者のクズバス派遣をめざす AOC 議長を務めるキャルヴァートの好意的な人物評があり，続いて彼とバーカーによって出された紹介兼募集小冊子〔*Prospectus*〕の内容がかいつまんで紹介されたが，以下の文章後半のような希望的観測が含まれていた。「全資産はソヴェト国家産業として運営されるであろうが，しかし完全な管理は働く外国人技師および労働者の手中に残るであろう」。そこには，クズバス・コロニーがアメリカ人に何を提供するか，を彼らの父祖の開拓者精神とつなげての劇的な宣伝があった。cf. R.E. Kennell, “Lenin Called Us: A Kuzbas Chronicle,” *New World Review*, Vol. 39, No. 4, Fall 1971, 86. そのつながりに似た連想は，すでに上記ウッド記事にもあった。「彼はメリーランドに定住したキャルヴァート家の直系の子孫である」と。

の交渉に時間を費やさざるをえなかったものの，上記趣意書が公刊され，各方面からの反響を呼んでいるとある。どうしても現場に立ち会っていないリュトヘルスからの「指令」が行き違いかねず，意思疎通の困難さが垣間見られる。

そのことは，（それに先立って 3 月 5 日にも “T.B.”〔バーカー〕がリュトヘルスに書簡を送ったようで）3 月 23 日に “S.J.”（リュトヘルス）が出した返事中の文章にも当てはまる[29]。「あなた〔T.B.〕は，組織がソヴェト・ロシアに対して保証を与えなければならないことを十分にわかっていない。彼らは離れすぎていて，ニューヨークで起こっていることを私以上に知らない。彼らはマルテンスの諸報告を受け取っており，性急な行為に対する何らかの保証を得たいのであろう」。

（29） РГАСПИ, 515/1/4307/24-25 (retyped copy). 本文中に「私の組織委員会宛書簡 No. 23 に加えて」とあるように頻繁に通信しあってはいた。

第 3 章　運営をめぐって

1922 年 3 月 3 日の AOC 会議後ひと月もの間が空いて，1922 年 4 月 1 日（土曜日）の午後 1 時から 5 時 45 分まで全員会議にふさわしい AOC 会議がようやく開催され，スカイラーが暫定議長を務めた [1]。

キャルヴァートは，〔上記のように一部のメンバーが〕承認を求めて CTO に提議されているものの，モスクワからの承認までの間，全員が活動すべきである，と語った。続いて，彼は有能な諮問委員会の設置を提起し，技師，労働指導者，弁護士などから選ぶことが可決された。その具体的な人選は，引き続き翌日に開催された会議で審議されることになった。

ハイマンは，すでにリュトヘルスに次のような書簡を書いたと語った。「たぶん組織費用のために 275,000 ドル [2] の一部は取っておかれ，そして同志ローレ（L. Lore）が個人的にトロツキーに似たような推薦をしてくれるであろうと期待して，彼を会議に出席するよう招待した」。実際にローレはゲストとして出席した（なぜハイマンはローレを招待したのか，「似たような推薦」とは文脈から資金提供に関するものではないかと推測されるが，この件については少しあとで考察する）。

引き続き，翌 4 月 2 日日曜日の正午から途中 2 度の休憩を挟んで 22 時半まで AOC 会議が開かれ，出席者は前日と同様で，ゲストに変更があった [3]。

前日の会議で提案された諮問委員会の予定候補者リスト [4] がキャルヴァートによって配布された。いく人かを加えたリストをもとに，各候補者に問い合わせることになった〔途中 AOC の組織再編もあって 1 年後に諮問委員会は附設されることになる〕。

〔以下の議事録の大半は，わかりやすく間接話法を直接話法に変えて引用する（若干省略した発言あり）。〕

> ハイマンは，リュトヘルスからの複数の書簡を読み上げた。つまり，資金について，アメリカからとロシアから得る見込みがある。アメリカからならば，〔我々は〕組織を持たなければならない。ロシアからならば，我々は CTO の信頼を得るであろう組

---

(1)　РГАСПИ, 626/1/13/217-218. ただし，ムラリだけが欠席し，代理人ハイマンは出席した。

(2)　上記 1921 年 10 月 21 日および 11 月 22 日にそれぞれ締結された契約書中のソヴェト政府提供資金 30 万ドルのうちナジェジンスク工場（プラント）の調査研究用の 2 万ドルと外国での組織作業用の 5,000 ドルを除いた残りの金額を指す。

(3)　РГАСПИ, 626/1/13/219-220.

(4)　技師・建築家 12 人，評論家・時事漫画家 17 人，財務 3 人，労働指導者 10 人，社会事業・医療 4 人，弁護士 5 人の計 51 人にのぼり，委員会によって追加可能と記されていた。РГАСПИ, 626/1/13/219-221; 515/1/4297/3.

織委員会を持たなければならない。と言うのは，ロシアは〔資金援助問題で〕何度も苦しめられたので，委員会がリュトヘルスにとって満足のいくように形成されることが保証される限りにおいてのみ資金を送るであろうからだ，と。

ハイマン：……ローレが委員会に入ることを決定し，委員会は技術援助協会と共同すべきだ。組織委員会の 1 委員は辞任すべきだ。

バーカー：私が辞任しよう。

キャルヴァート：委員会は必要を満たすに十分であり，独身者が辞めるぐらいならば，すぐに私自身が辞めよう。モスクワの党はこのアメリカの組織〔AOC〕を支配しようと欲していないと感じる。

バーカー：クズバスは非党派的であらねばならず，いかなる理由であれ，資金がリュトヘルスによって留め置かれるならば，私はクズバスを推進したくない。

キャルヴァート：委員会が満場一致の行動を取るならば，リュトヘルスと CTO によって承認されるであろうと考える。

キレン：もしもそれが委員会の希望ならば，私は辞任するであろう……なおクズバスのためにしっかりと働くであろう〔が〕。

オウエンズ：……時間の要素，石炭，そして人員確保は必要なものであり，すべてが資金に依存する。

リース：ハイマンが言ったこととキャルヴァートとバーカーが報告したことの間で決定することは難しい。

バーカー：リュトヘルスはすべてを決定しようとすることなどを差し控えなければならないか，もしくはアメリカに来ることだ。

スカイラー：問題は我々がソヴェト・ロシアから資金を得なければならないということであり，ローレか他の誰かが委員会に入るならば我々は確実に資金を得るであろうことをハイマンが約束するならば，そうすべきだ。

キャルヴァート：我々は良い委員会を作り上げた，それは CTO によって賛成されるにちがいない。もしも CTO が IWW の〔表明されたばかりの反対の〕立場ゆえに考えを変えているならば，それを今知らなければならない。

コスグローヴ：その問題は CTO に知らされるべきだ。

オウエンズは，モスクワにヨリ多くの信用を与えることができる誰かが獲得されるべきであるとの了解の下で自らの辞任を申し出た。それは CTO の信用を少なくするにすぎないだろう，と全員が同感だった。バーカーは，オウエンズはローレより CTO の信頼をヨリ多く得ている，と言った。オウエンズは，自らの辞任が決定されることを言い張らなかった。

ハイマンは，キャルヴァートによって提案された電文が以下のように起草されるべきかを問うた。「60〔名〕が 4 月 8 日に〔出発する〕準備ができている〔入植者第 1 陣；第 4 章参照〕／ AOC〔の構成〕は〔上記 9 名および〕顧問のハイマンとローレ／ CTO によって供給される総額から要求〔する〕5 万ドルが組織経費と労働者の船舶輸送のために直ちに割り当てられるべき」

ハイマン：……元々〔委員候補者リストには〕委員会に 4 名〔キャノン，オウエンズ，ハイマン，コスグローヴ〕の共産主義者がいたが〔キャノンが入らないので〕い

まや 3 名だけになるかもしれない。（〔同発言を訂正する〕キャルヴァート夫人による注。しかしながら，ムラリを加えて 4 名である。）

オウエンズ：ハイマンは自らは電文に署名しないだろうと提案するような状況である。

全員がハイマンによる共産主義者にありそうな態度を遅れて示したことに反対した。

キレンの動議：我々はそれに基づいて作業することができるところの計画を立案し，それを本委員会に提出するために技術援助協会の 1 執行委員が招待されるべきである。

混成の委員会が合同の計画を立てるべきだとのライヘル（L.S. Reichel; 前日の会議でリースの動議により技術援助協会の 1 メンバーの参加要請が採択されて，ゲスト出席した同協会代表）による修正案が採択され，さらに，議長が技術援助協会と会う 2 メンバーを指名することが同意された。

キレンは，再び自らの辞任を勧めた。

オウエンズ：辞任は受け入れられるべきだ。

キャルヴァート：それは調和をもたらすだろうか。

オウエンズ：そうだ。

ハイマン：このことが満足のいくものか，自信が持てない。現委員会が満足のいくものかどうか，我々はまずリュトヘルスに見てもらうよう電報を打つべきだ。

リース：リュトヘルスに委員会が満足のいくものかどうか，我々は打電すべきだ。

その動議は通り，電文が以下のように作成された。「〔彼ら（9 人の委員名があり，ハイマンの名はない）〕は今会議中／この委員会はあなたを満足させるか／返事を打電せよ／至急」[(5)]

リュトヘルスの代理人ハイマンは，党派性の強い発言をし，共産主義者が AOC で多数を占めることを固守した。会議ではおおよそのグループ分けが表面化した。つまり，共産主義者（オウエンズ，コスグローヴ，ムラリ，ハイマン），IWW（キャルヴァート，バーガー，キレン），そしてリベラル（スカイラー，リース，ボールドウィン）の 3 グループである。ハイマンはリュトヘルスの代理でありながら 1 委員であるかの主張を繰り返し，ローレを顧問に加えようとさえした。

結論から先に言えば，ハイマンの主張はリュトヘルスの考えを代弁するものとは決して思えず，他ならぬハイマン自身が AOC 内で「党派争い」を助長したのではないかということである。以下がその理由である。①上記リュトヘルスの人物評によれば，ムラリには「IWW の原理原則への強い共感があ」り，コスグローヴは「共産主義者だが，反対派に所属している」とあり，ハイマンが前者を自陣営に組み入れず，また後者に向かってなぜ

---

(5) ここで議論は終わっている。9 人の最終承認については，遅ればせながら『クズバス』6 月 20 日号に「モスクワの中央によって承認された」とベタ記事が載る。*Kuzbas*, Vol. 1, No. 2, 20.VI.1922, 11.

候補者リストに載ったのかとの自陣営の者に対してはそぐわぬ質問をしたことからもわかるように，かえってハイマン独りの党派性が浮き彫りにされる。②リュトヘルスは第 2 章で考察したように，ハイマンとは異なる立場に立っていた。つまり，AOC 自体が「決定的な発言力を持」ち，それによって「様々な分子（IWW，CP など）を結びつけ」，そして「あれやこれやの政治的影響による支配を回避す」べきである，と。③メリー・キャルヴァートの未刊原稿によれば，ローレは候補者リストに挙げられていたとあり [6]，またハイマン自身もそのように発言しており，間違いないようだが，ハイマンのようなやり方でのローレ推薦は，もしもリュトヘルスがこの場面に立ち会っていたならば，リュトヘルスの思想的な立場から見て，なかったのではないか。

③については推測の域を出ないものの，ここでローレについて見ておきたい。1917 年 1 月 14 日にヨーロッパから追われるようにニューヨークにやって来たトロツキーは，翌 15 日の晩にブルックリンのローレ宅で開かれた（アメリカ・レフトウィング結集にとって重要な踏み台となった）会議に出席した。在米中のトロツキーは，ローレに生活面で世話になり，ローレが編集していた『フォルクスツァイトゥング』（*Die New Yorker Volkszeitung*）への寄稿やドイツ人向けの有料講演を数多くこなした。ここからローレのトロツキーへの傾倒が始まる。その会議には（片山潜とともに）リュトヘルスも出席していたのであり，彼はレフトウィング運動をともに担っていたブディン（L.B. Boudin）を（ロシア 10 月革命をカウツキー〔K. Kautsky〕と同様に「悲劇」と見たことで）強く批判することになり，ローレの思想的立場をブディンに近いものと捉えていた [7]。その（一時期共産主義者でありながら決してその政治（ポリティクス）に同化することのなかった [8]）ローレがハイマンによって推薦された背景には，トロツキー・シンパというだけでなく，労働党議長キャノンと当時ローレが共同歩調を取っていたことがあったからではなかろうか。

研究史上ほとんど未解明のハイマンについてだが，彼はハーパー（J. Harper）の偽名で（1921 年 2 月にニューヨークで本格的活動を開始した）コミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシーに関わった。その時，彼は自らが預かった運営資金をめぐる不明朗会計疑惑およびトムソンことフレイナ（L.C. Fraina; Thompson）の代理に関する越権行為を，議長片山に問題視された [9]。そのようなハイマンが，今回の代理人として果たしてリュトヘルスが信頼したような人物であったのであろうか。運営資金問題に関しては（限られた史料を見る限り）今のところハイマンへの疑問点は見受けられない。ただし，（あとで別件で詳しく取り上げる）スカイラーのリュトヘルス宛 1922 年 5 月 12 日付追伸に，会計監査委員会の設置提案に関して「実は私は彼らの少なくともひとりの善意を深刻に疑っている」とある [10]。監査委員候補者であり「善意」で何かをしようとしている人物にハイマ

（6） Morray, *Project Kuzbas*, 74.

（7） 山内『リュトヘルス』，102, 150-151, 157, 171-174, 191.

（8） Palmer, *James P. Cannon*, 227.

（9） 山内昭人『初期コミンテルンと在外日本人社会主義者 ── 越境するネットワーク ──』（ミネルヴァ書房, 2009）, 82-84, 86.

（10） РГАСПИ, 515/1/4299/107.

ンが該当しうるのかは今のところ不明である。

AOC の CP との関係には，後者の関連組織である技術援助協会および（BCXH によってそのアメリカ代表に任命された）ヘラーがまた絡んでいた。4 月 2 日会議の冒頭にキャルヴァートが，求めに応じてロシアで本プロジェクトが承認された経緯を報告した，と議事録にあり，そのあとにキャルヴァート夫人の補注が以下のようにある。「私〔同夫人〕はキャルヴァートのロシアでの達成報告のノートをまだ持っていることに気づく。それには一部こう書いてある。『この提案を実施するマルテンス（NY の技術援助協会長（ママ））の考えは，リュトヘルスとは違っていて，産業を操業するこれらの考えの間で争いが起こった。……』」[11]。その「争い」を〔全員会議中の発言にも窺われるように，キャルヴァートには物事を楽観的に見る傾向があり，「モスクワの党はこのアメリカの組織を支配しよう欲していないと感じる」と発言したように，党派的対立に対しての受けとめが弱かったからであろうか〕彼は具体的に報告しなかった。そのリュトヘルスと BCXH（実質的には主導者マルテンス）との意見対立こそ，第 1 篇の主題であった。マルテンスの考えに同調し（第 1 篇，10，13），彼の意を受けて帰国途中だったヘラーは，リュトヘルスと「衝突を避ける」ことを「約束した」にもかかわらず，帰国後 AOC と対立し，モスクワでの意見対立が表立ってはいないけれども再現したのである[12]。

その意見対立の影響下で，AOC と技術援助協会との大詰めの交渉が 1922 年 4 月 19 日に行われた。AOC からムラリ，バーカーが，技術援助協会中央ビューローからヴィリガ（Ф. Вильга; F. Wilga; 書記），アントニュク（P.K. Antoniuk），ライヘルがそれぞれ出席した[13]。後者は，自らの 1 メンバーが AOC に入るべきだと提案した。それに対して前者は，顧問の資格では反対しないが，委員だと組織委員会に諮るしかないと発言した。

アントニュクは自分たちには BCHX によって与えられた信任状の下で行動する権限があると指摘したのに対して，バーカーは AOC へ CTO によって発された信任状にはそのような権限を受け入れる規定はないと反論した。さらにバーカーは，クズバスへの参加の前提は，申請書〔特にその末尾にある（レーニンが原案を作成した）4 項目から成る誓約

（11） РГАСПИ, 626/1/13/222. 引用を省略した後半の両者の対立に関する記述は，直接立ち会っていないこともあり，正確とは言いがたい。

（12） リュトヘルスはすでに 1922 年 3 月 23 日のバーカー宛書簡の中で，既述のように，「彼ら〔CTO メンバー〕は……ニューヨークで起こっていることを私〔リュトヘルス〕以上に知ら」ず，その一方で「彼らはマルテンスの諸報告を受け取っており」云々とある，そのマルテンス諸報告とはヘラーらからの情報に基づくものとリュトヘルスは意識していたのであり，末筆近くでも次のように記していた。「ヘラーは我々の計画を実際的と考えておらず，彼が我々の問題を解決するのを助けることができるとは私は思わない」。РГАСПИ, 515/1/4307/24-25.

（13） РГАСПИ, 515/1/4307/19; cf. D.J. Evans, “Society for Technical Aid to Soviet Russia (STASR),” J.L. Wieczynski (ed.), *The Modern Encyclopedia of Russian and Soviet History*, Vol. 36（Gulf Breeze, FL, 1984）, 105-106.

書[14]へ署名することであり，全メンバーへの責任は組織委員会の手中にあり，各自が所属する諸組織には本質的にない，と主張した[15]。

両者の主張は平行線をたどり，そのあと AOC 側でまとめられた日付なしの「技術援助協会とクズバス〔AOC〕の現状についての論評」を見ると，以下抜粋するように共同どころではなくなっている[16]。

> クズバスは，技術援助協会からロシアへ向けて発とうとしている多くのメンバーを奪っている（技術援助協会にとっては会員数の減少が財政難を引き起こす）。
>
> 技術援助協会はクズバス計画に正式承認を与えていないが，しかし我々の組織は技術援助協会の多くのメンバーと接触しているし，多くの支部は我々と共同している。
>
> ロシアへ行こうと技師たちが技術援助協会に参加しようとしても，その即時の〔ロシア行の〕機会は言及されないのに対して，クズバスの方はその即時の申請が出せる。
>
> クズバスは，それ自身の内部の問題において自立的（autonomous）であり，モスクワに明確に用意されている資力を通してロシアの利益のために働く誰とでも，あらゆる党とでも共同するし，そして CTO によって承認されている[17]。

この「誰とでも，あらゆる党とでも共同する」との方針は，明らかに技術援助協会のそれとは異なる。技術援助協会は 1921 年 7 月初めにニューヨークの協会のイニシャティヴで開催された第 1 回全国大会で制定された規則第 2 条で「共産主義に基づく再建事業でロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国（РСФСР）を支援する」ことを謳っていたし，同協会が開設していた機械工学，数学，そして電気工学の専門学校への入学資格は，共産党，共産主義労働党，または IWW の各メンバーのみとしていた[18]。その党派色を鮮明にする方針は，明らかに AOC の「非党派的態度」とは異なっていた。

派遣労働者募集に関してもまた，従来から党派的な解釈が下されてきた。モレイで見ておくと，彼はキャルヴァートとバーカーは IWW 組合員ないし共鳴者の志願者を優遇し，

（14） РГАСПИ, 515/1/4296/3; 515/1/4306/187; *Prospectus*, 32.

（15） このことに関して，バーカーは後年の回想で以下のように述べている。申請書への署名は，技術援助協会の何らかの影響力が及ばないことを意味し，技術援助協会としては認めがたかった。〔なお付記すれば〕同署名は個人の資格で外国に行く契約をしたことになり，法律的にも政府から文句を言われることを回避できた，と。cf. Barker, “Lenin inspire us,” 162.

（16） РГАСПИ, 515/1/4307/17. 編注（л. 16）によれば，日付は 1922 年 5 月頃。

（17） おおよそ 1922 年に限定しての双方による労働者派遣事業に関する比較データについては，第 4 章を見よ。

（18） *Recognition of Russia. Hearings before a Subcommittee of the Committee on Foreign Relations United States Senate Sixty-Eight Congress First Session pursuant to S. Res. 50*（Washington, 1924）, 456（傍点引用者）.

他方リュトヘルスは共産主義者の参加を望んでいたと解した[19]。その解釈が全く根拠のないものであることは，第 1，2 章の実証で明らかだ。リュトヘルスはことごとく政治的介入を拒み，資格を持つ技師・労働者の厳選を望んでいたし，キャルヴァートとバーカーもまた政治的立場の如何に関わらず階級意識のある技術者を得ることが大事だと発言していた。

ここで，AOC ニューヨーク事務所の日常業務について，既述の「日常業務に関する報告書」によって触れておきたい。本事務所は正式な事務管理者なしに運営されてきて，各人が事務所の他の誰かがするよりも自らの仕事に対してヨリ訓練され，ヨリ適応していた。そのことは他者の分担への共同ないし精励に常に欠けていた。議長〔キャルヴァート〕と会計係〔コスグローヴ〕は大半の時間，事務所から離れて徴募に奔走していた。副議長〔ムラリ〕は対フィンランド人募集・通信，バーカーは『クズバス』編集・発行および通信全般，そしてスカイラーは労働者派遣，装備等に伴う技術問題をそれぞれ担当した。残りの委員は事務所で働くことはなく，可能な限りの支援に限られていた。結局，収支資金管理や日常業務全般の調整をメリーが「私の特別な責任で行った」[20]。とはいえ，具体的な装備品購入などの事務作業はスカイラーが担当しており，実質的な「事務管理者」の役割を果たし，最初の活動報告書（下記）も彼が作成することになる。

そのスカイラーとリュトヘルスとの書簡のやり取りについては，ほんの一部しか見ることができないけれども，前者から後者への 1922 年 5 月 11 日付書簡を以下抜粋する[21]。

> 私〔スカイラー〕はロシアの産業体制の状態を誤認してはいない。私はケメロヴォとナジェジンスク工場をバラ色に見てはいない。なるほどキャルヴァートは楽観的だが，しかし彼は誠実であることを忘れてはならない。
>
> 我々はクズバスに装備と道具不足のまま人員を送ってはいない……この点については第 2 陣は第 1 陣よりヨリ準備されているし，第 3 陣は第 2 陣を超えて決定的な改良を示すだろう。
>
> 我々は我々が期待したこの組織〔技術援助協会〕と共同することができないでいる。彼らは我々に労働者たちを得させることを約束したが，しかしこれまでのところ彼らは妨害以外の何ものもしていない。……例えば，ヘラーは『ソヴェト・ロシア』の最新号に論文を書き[22]，資本主義の利権のための好機について語るが，クズバスにつ

（19） Morray, *Project Kuzbas*, 84.

（20） РГАСПИ, 515/1/4306/209-210.

（21） РГАСПИ, 515/1/4299/105-106. スカイラーはリュトヘルスからの 4 月 22 日付書簡を読んで，自らがリュトヘルス宛に先に出した第 1 信では言わんとすることが不明確であったとわかり，本第 2 信を出すとのことで，原物は 2 日後に出帆する第 2 陣に託された。

（22） ヘラー論文とは，1921 年 6−11 月のほとんど 5 カ月間の訪露を踏まえて書かれた 5 月 1 日号掲載のものである。A.A. Heller, “The New Constructive Phase in Russia,” *Soviet Russia. Official Organ of the Friends of Soviet Russia*, Vol. 6, No. 8, 1.V.1922, 224-227.

いては一言もなかった。……我々は彼らなしに前進するつもりだ。

翌 5 月 12 日にスカイラーは追伸を書いた[23]。

私はあなたに状況，とりわけニューヨークにおけるその部分をヨリ明瞭に捉えてもらいたい。〔別の箇所の 1 文：ユリウスが昨日午後に来たのも派遣者の質の問題でであり，私は改善しつつあることを述べた。〕

私は会計監査委員会の性質に関するあなたの変更について論評したい。あなたは皆がクズバスに興味を証明しているとは限らない人たちに機械的な監査をさせようとしている。実は私は彼らの少なくともひとりの善意を深刻に疑っている。同委員会は CTO に金が無駄に，あるいは不注意に費やされていないかを保証することがすべてだ。……あなたは我々の誠意を信用すべきだ。……[24]

翌 5 月 13 日に第 2 陣がニューヨーク港を出航した（キャルヴァートは指令通りには乗船できず，残って徴募活動を続けることになる）。それに先だってリュトヘルスは 7 万ドルをハイマン宛に送金している[25]。

ようやく機関誌『クズバス』が 1922 年 5 月 20 日に創刊された。バーカーが広報・定期刊行物の運営に関する豊富な経験を買われて編集者となった。彼は自らタイプを打ち，同誌の通信と同様に通信全般にも関与した[26]。その創刊に至る経緯は，こうである。

元アーカンソー州司教ブラウン（W.M. Brown）はキャルヴァートからクズバス・プロジェクトの説明を受け，それを「エジプトから〔約束の地〕カナンへの脱出よりはるかに大規模な脱出」と捉え，妻とともに 350 ドルの小切手を AOC へ提供した。その上，彼は（その時点で 75,000 部売れていた）著書『共産主義とキリスト教』（*Communism and Christianism, analyzed and contrasted from the view-point Darwinism*）200 部の提供を申し出た。その資金で本誌創刊号が出ることになった（1 部 5 セントで，以後，予約が刊行を継

（23） РГАСПИ, 515/1/4299/107. 昨日書簡を書き上げたあと，リュトヘルスの CTO 宛覚書の翻訳を受け取ったことと，ユリウス〔・ハイマン〕があなたの指示に従って私と話しに来たことにより本追伸を書いたという。

（24） 後述のスカイラーの 6 月 12 日付報告書によれば，この会計監査の提案は CTO によって未だ取り組まれていない。РГАСПИ, 515/1/4296/20.

（25） РГАСПИ, 626/1/6/11. この送金に関する言及が 2 つある。1 つは，1922 年 5 月初めにヘイウッド（在モスクワ）がバーカーとキャルヴァートに宛てた書簡（既述）中の言及で，送金元はモスクワであることがわかる。「7 万ドル，つまり技師のための 2 万および機械のための 5 万が，電信で送られた」。もう 1 つは，ガルキナの記述で，送付元への言及は全くない。「契約に従って，1922 年 4 月 26 日 AOC に設備買い付けのために 7 万ドルが届けられた。通貨の一部は入植者第 2 陣の装備用品で使われた」。Галкина, *АИК-К*, 39.

（26） 初刷 4,000 部は 1 週間で捌け，増刷 2,000 部を発注することになった。*Kuzbas*, Vol. 1, No. 2, 20.VI.1922, 10. ほぼ月刊で，毎号 12 ないし 16 頁建てで発行されていく。

続させた）[27]。

巻頭論文はリュトヘルスの「クズバス／ソヴェト・ロシアを強化するための一努力」であった[28]。冒頭に「何がクズバスでないのか」を簡潔に述べることが趣旨だと謳っていたが，それは冷静な[29]「趣意書」にもかかわらず巻き起こされた夢想的な興奮を覚ますためであり，全篇そのトーンは貫かれていた。以下，それらの指摘を抜粋する。

（1）CTO の管理下に創設された「『自治』コロニーは，最高度の〔生産〕能率を可能にするためにソヴェト当局が十分に自由裁量を保証したことを意味する。それ以上のものではない」。

（2）「クズバスは，機械産業の増大する生産によって資本主義に反対して労働者のソヴェト共和国の経済的前線を強化するために，可能な限り多くを生産するため働き，かつ激しく働く場所である」。

（3）「労働の生産物は社会的所有物であり」，「生産物は PCΦCP に属し，アメリカ人は，最高の能率で働くためのこの基準を必要とするゆえに，当分の間ヨリ高い生活水準を受け取るにすぎないだろう」。

（4）「最高に可能な技術的・社会的効率を発展させるために十分な自治を持つけれども，クズバスが持つ唯一の好機は PCΦCP の一部であることの中にある」。

なお，同創刊号にはこの論の補説となりうるトロツキーの文章が抜粋紹介された。つまり，クズバスに興味を持つ 4 種類の人々がいる，若い熱狂者，冒険追求者，一儲けを企む者は，いずれも不適格であり，最後の「偉大な社会実験および非営利に基づく産業の創造に興味を持つ者」こそが求められている，とそれは説いていた[30]。アメリカからクズバス派遣第 1 陣が 1922 年 4 月 30 日モスクワに到着した際，トロツキーは彼らを「ロシアの経済前線に自ら立つためにやって来た兵士」として歓迎した[31]。

1922 年 6 月 12 日にスカイラーによって最初の報告書が作成・提出された[32]。7 頁にわたる非常に整った報告書だが，第 2 陣までの派遣報告等は省くとして，入植者募集をめぐっての「党派争い」に関する未紹介事項に限定して抜粋紹介する。

（27） “What a Bishop Thinks of Kuzbas,” *Kuzbas*, Vol. 1, No. 1, 4. モレイもガルキナも寄付の額を（典拠を示さず）500 ドルとしている。Morray, *Project Kuzbas*, 89; Галкина, *АИК-К*, 40.

（28） S.J. Rutgers, “Kuzbas. An Effort to strengthen Soviet Russia,” *Kuzbas*, Vol. 1, No. 1, 20.V. 1922, 1.

（29） リュトヘルスは「冷静な」と記しているけれども，本冊子を落手した時点での感想を，「クズバス年譜」では「いくらか楽観的に作成されており，特に論題（テーゼ）を修正する必要がある」と記している。РГАСПИ, 626/1/13/10.

（30） “Trotsky on Kuzbas,” *Kuzbas*, Vol. 1, No. 1, 7; reprinted in: *ibid.*, Vol. 2, No. 4, 1.X.1923, 15.

（31） *Kuzbas*, Vol. 1, No. 2, 20.VI.1922, 2.

（32） “Report on Work of American Organization Committee of Kuzbas” by Schuyler, РГАСПИ, 515/1/4296/16-23.

IWW 総執行委員会によって取られたソヴェト・ロシアへの非妥協的立場は，クズバスが IWW の利権であるとのソヴェト・ロシアのいく人かの友人たち側の〔非妥協的〕感情と良く合致している。トラブルは CP の隊列で起こっている。党の支持は，たとえ与えられるとしても，自発的に与えられてきていない。／繰り返し共同を求められた技術援助協会は，しかしそのような共同の基礎について駆け引きを欲してきた。これまで我々は彼らから全く支援を得られていない。

なぜ技術援助協会は非妥協的な立場を取ってきたか，を理解するのは困難だ。にもかかわらず，技術援助協会とクズバスとの間の通信は，技術援助協会が自らを先輩（senior）で，クズバスより上位（superior）であると考えていることを明らかに示している。なるほど『ソヴェト・ロシア』はクズバスの「趣意書」が最初に現れた時，多かれ少なかれ満足のいく書評を載せているが [33]，しかし 6 月 15 日号〔最新号〕までクズバスは同誌面の広告欄への掲載を認められていない。この無関心と干渉の結果として，徴募計画は遅れている。我々は今我々自身の機関誌を強いられている。幸いにも元司教ブラウンがその公刊に使われうる基金を寄付してくれた。

我々は彼らの名前を公に借りることはできないが，多くの合法的で財政的に高位の人々から支援と助言を得ている。これまでのところ我々は合州国政府の困難に遭っていない。

その頃リュトヘルスの方は，1922 年 5 月 4 日に家族（妻，次男，末娘）を伴ってロッテルダムからベルリン，シュテッティン経由でロシアへ向かい，6 月 6 日には彼はモスクワに到着していた [34]。リュトヘルスを待ち受けていたのは，現地行はもちろんのこと，早くも年末に向けての追加契約や契約更新などのソヴェト政府との交渉であった（次篇）。

ニューヨークからもスカイラーとリースが，それらの交渉もあり（また後者はアメリカ西海岸から西回りのクズバス行ルートを開拓するため極東経由での帰国を予定して），1922 年 10 月 1 日開催予定のクズバス産業会議に間に合うよう 9 月 5 日にモスクワへ向けて発った [35]。

1922 年 10 月 5 日にリュトヘルスは，契約更新のためにまとめられた報告書をソヴェト政府に提出するためモスクワに向けて発った。ケメロヴォでリュトヘルスを見送った若い入植者夫人ルース・ケネル（Ruth E. Kennell）は「クズバスの運命は，その決定にかかっている」と『ネイション』宛 11 月 1 日付書簡に記していた [36]。АИК-К と CTO との新契

（33） *Soviet Russia*, Vol. 6, No. 4, 1.III.1922, 133. 「多かれ少なかれ」と不本意な表現にとどまっているのは，書評欄でありながら大半のスペースを全露労働組合中央委員会によるアメリカ労働運動への 1922 年 1 月 15 日付〔歓迎と協力〕アピールの掲載に充て，同誌自体の支持表明がなかったからであろう。

（34） РГАСПИ, 626/1/6/11.

（35） *Kuzbas*, Vol. 1, No. 5, 20.IX.1922, 12. 1922 年 12 月 28 日には，コスグローヴも現地視察のためロシアへ発った。“A Visit to Kuzbas,” *ibid.*, No. 11, 1.IV.1923, 1-3.

（36） R.E. Kennell, “A Kuzbas Chronicle,” *The Nation*, Vol. 116, No. 3000, 3.I.1923, 7-10.

約は，12 月 25 日に締結された。しかし，それは重要な変更と追加補足を伴った更新であり，AOC にとっては思いもよらぬ抜本的な組織改編であった。その改編後の AOC の問題については，次篇で契約更新に至る現地の操業に向けての経過説明と更新された契約内容の検討を経て，論じていくことにする。

第 4 章　労働者派遣事業概観

以上の章で，特に AOC の設立から運営に至る内部問題を明らかにし，それらの問題を論じてきた。それでは，AOC のまさに本業であった労働者派遣事業は，実際にどうであったか？　本篇の最後に，1922 年から АИК-К 自体が解散・再編成されることが決定する 1926 年末までを数量的データを用いて概観しておくことにする。

機関誌『クズバス』は，初年度の派遣者募集事業が終了したあと 1922 年 9 月 20 日号で「4 月 8 日から 8 月 26 日までに 450 人以上が，アメリカの産業からロシア経済前線へ運ばれた。……来春，クズバスは 2,000 人を必要とするであろう」と報じ，以下の具体的データを掲載した [(1)]。

1-1）1922 年中にニューヨークからクズバスに派遣された労働者（およびその家族）

派遣グループ	出発日	到着日	労働者	妻＋子供（10 歳以上）	子供（10 歳未満）	計
A［第 1 陣］	4 月 8 日	5 月 25 日	(91) 60	9	1	(101) 70
B［第 2 陣］	5 月 13 日	6 月 25 日	(68) 66	17	18	(103) 101
C［第 3 陣］	6 月 17 日	7 月 14 日	66	17	20	103
D［第 4 陣］	7 月 22 日	8 月 25 日	(87) 79	25	23	(135) 127
E［第 5 陣］	8 月 26 日	10 月 2 日	31	17	9	57
計			(343) 302 (65.9 %)	85 (18.6 %)	71 (15.5 %)	(499) **458** (100 %)

備考　表中の丸括弧内の人数は，出発時の人数で，到着時には〔ドンバスなどに向かうとかで〕減っている。

1-2）1922 年中に派遣された労働者（およびその家族）が提供した資金

5 グループ全体での提供資金は，旅費で 65,000 ドル以上，食糧費で 50,000 ドル前後，そして提供された機械・道具は 27,523.80 ドル相当，購入し送り込まれた機械は 27,491.01 ドルで，合計約 **170,014.81 ドル**であった。

その合計額は，実施計画上 300 ドルだった手出し額を全員に適用した場合，（上記総人数）458 人× 300 ドル＝ 137,400 ドルとなる見込み額から見て，全体で約 32,614.81 ドル，各自で約 71 ドル多めに手出しをしたことになる。実際には，手出し額は労働者 330 ドル，

（1）　“The Year’s Work,” *Kuzbas*, Vol. 1, No. 5, 20.IX.1922, 4; “Kuzbas Work for 1922,” *ibid.*, 10-11; cf. Галкина, *АИК-К*, 37, cf. 39.

妻と 10 歳以上の子供 230 ドル，10 歳未満の子供 115 ドルとそれぞれ取り決められた，とある[(2)]。それに基づいて試算すると，（302 人× 330 ドル）＋（85 人× 230 ドル）＋（71 人× 115 ドル）＝ 127,375 ドルとなり，全体で約 **42,639.81 ドル**多めに手出しをしたことになる。

1-3）1922 年中に派遣された労働者（およびその家族）の国籍別内訳

「メンバーの市民権〔国籍〕が何らかの基準となるならば，АИК-К は本質的にインタナショナルであると主張することができる」との書き出しで，国籍別〔厳密ではない〕人数が記されており，以下多い順に記す。

フィンランド人（**106 人**），アメリカ人（**75 人**），ロシア人（**57 人**），ドイツ人（24 人），ユーゴ-スラヴィア人（23 人），リトアニア人（15 人），ハンガリー人（14 人）。

続いて，それぞれ 9 人がポーランド人，スウェーデン人，ボヘミア人，オーストリア人；6 人がイギリス人；それぞれ 3 人がカナダ人，ラトヴィヤ人，ブルガリア人，エストニア人；2 人がオランダ人；それぞれ 1 人がキューバ人，フランス人，シリア人，スイス人，アイルランド人，ルーマニア人。

以上，23 カ国から合計 376 人で，10 歳未満の子供（71 人）が含まれないので，11 人が不明である。上位 3 つで 238 人にのぼり，61.5 %，3 分 2 近くを占めている。

1-4）1922 年中の派遣労働者の職業別内訳

職業別に 276 名が分類されており，上位から 5 つ取り上げる。

鉱山労働者 74 人，大工 47 人，機械工 44 人，農業従事者 23 人，鉄鋼労働者 18 人となり，以上で全体の 74.6 %，約 4 分の 3 を占める。

6 番目が技師 16 人（含，製鉄・鉱山・土木・化学・電気）となっている。

1-5）1921 年末から 1922 年 9 月にかけて対ソヴェト・ロシア技術援助協会によって組織され，ロシアへ派遣されたグループおよび人数

派遣グループ数	人数	%	派遣先
7 農業コミューン	300	46.7	タンボフ県，ウクライナ，ドンバス
2 建設コミューン	80	12.5	モスクワ，ドンバス
1 炭鉱コミューン	32	5.0	
3 機械工コミューン	80 以上	12.5 以上	モスクワ，ペトログラート
2 仕立屋および 1 靴工グループ	150	23.4	モスクワ，ペトログラート
1 漁業コミューン	〔無記入〕	〔無記入〕	カレリア自治共和国
	642 以上		

備考　マルテンスのスモリヤニノフ（В.А. Смольянинов; СТО 総務部次長）宛 1922 年 10 月 8

（2）　РГАСПИ, 515/1/4306/218.

日付書簡での技術援助協会の活動報告による[3]。

時期は，BCHX 産業移民部（議長マルテンス）が委託し，ヘラー代表を通じて本格的な活動が始まった 1921 年末から報告書の日付の前の月まで。

本表の合計 642 人以上が，約 50 万ドル分の機械，食糧等を運び込んで派遣されたとのことだが，**1-1**）と比べて 1.5 倍近い人数である。しかし，本表と比べて АИК-К の派遣者数は，CP，IWW 執行部から支援が得られなかったばかりか，ゼロからのスタートで 1922 年 5 月から派遣が開始されるという АИК-К のハンディを考慮すれば，見劣りするものではないだろう。**1-4**）の鉱山労働者，機械工，鉄鋼労働者（計 136 人）が АИК-К による派遣の特徴であることは当然として，技術援助協会による派遣は（その後の時期も含めて）農業従事者が中心であった。「約 50 万ドル分」は，**1-1**）の 3 倍近くの額であり，全額が均等に派遣者手出し分だと，各自約 779 ドルとなり，考えにくい。組織的な援助があったのではないか。

2）1923 年中に派遣された労働者（およびその家族）[4]

派遣労働者数の激減は，1922 年末の再契約によって改訂された方針転換による（次篇）。

派遣	出発日	到着日	男性	女性	子供	計
第 6 陣	5 月 1 日	［未確認］	13	7	7	(35) 27
第 7 陣	6 月 13 日	［未確認］	［内　訳　未　詳］			20
第 8 陣	7 月 10 日	9 月 1 日(予定)	8	6	3	(20) 17
第 9 陣	7 月 18 日	8 月 28 日	9	4	2	15
第 10 陣	8 月 21 日	［未確認］	4	2		6
第 11 陣	9 月 5 日	10 月 16 日	17	4		21
第 12 陣	10 月 17 日	11 月 20 日(予定)	［内　訳　未　詳］			17
計						(134) **123**

備考　出航は，第 8，10 陣はサンフランシスコ港（西回り），その他はニューヨーク港。
なお，第 10 陣は関東大震災直後の 9 月 7 日に横浜に入港し，大惨害を報じている[5]。

---

(3)　“О помощи трудящихся зарубежных стран Советскому сельскому хозяйству (1921–1925 гг.),” *Исторический архив*, 1961, No. 4, 60-61.

(4)　*Kuzbas*, Vol. 2, No. 2, p. 9; No. 3, pp. 6, 15; No. 4, pp. 1, 9, 10, 11, 15; No. 6, pp. 3, 4; Галкина, *АИК-К*, 37.

(5)　“Kuzbas Member Describes the Japanese Disaster,” *Kuzbas*, Vol. 2, No. 4, 1.X.1923, 9.

3）1924 年から 1926 年にかけて派遣された労働者（およびその家族）[6]

派遣年	男性	女性	子供	計
1924 年	52	2		54
1925 年	19	3	2	24
1926 年	37	9	9	55
計	108	14	11	**133**

本データはガルキナによっているが，1924 ～ 1926 年に少数の入植者グループや個人がコロニーに参加したものの，正確な数字は不明とのことである。この 133 人も合州国からの派遣者だけなのか明記されておらず，欧州からの派遣者を含めた全期間における総数は明らかでない。ガルキナは「しかし，コロニーでいかなる時も 400 人以上にはならなかった」と記している [7]。

以上データを挙げた派遣労働者の実態に迫る考察は本稿では本筋でないので，ここでは 2，3 の論点を挙げることにとどめさせてもらう。

リュトヘルスは絶えず派遣労働者の質を問題視していた（キャルヴァートらへの指令でも「最大限の資格と道徳性」が強調されていた）。けれども，『クズバス』に掲載されつづけていた募集者の資格条件はそれなりに厳しかった。例えば，炭坑夫職長の場合，ペンシルヴェニア州認可書または US 鉱山局実験所証明書が求められていた [8]。にもかかわらず，AOC による労働者の能力・資格等を判定する作業は困難を極めた。一から作業を始めて，しかも時間的に急かされる中，キャルヴァートとバーカーが判定するには力不足であった（スカイラーの加入もあり，作業は徐々に軌道に乗っていったけれども）。

応募者自身による過大評価の自己申告の問題は，現地に入ってしばしば問題視された。「日常業務に関する報告書」には，以下の事例が挙げられている。AOC は彼らをニューヨークに到着するまで個人的に知ることはできなかったし，多くは我々が来る指示を出さないうちに西部から群れをなしてやって来た，と [9]。

最終的には，以下のガルキナによる集計のように，入植労働者の質は高かったと言えよう。入植労働者の約 80 %は高度な資格を持っていて，多くの鉱山労働者，機械工，建設労働者は第一級であった。少なくとも 50 人の入植者は上級教育機関の修了証書を持っていた [10]。

AOC の最大の失策は，ケネルによれば，炭鉱技師を派遣できるようになる前に 3 グル

（6） Галкина, *АИК-К*, 37.

（7） Галкина, *АИК-К*, 192.

（8） E.g., *Kuzbas*, Vol.1, No. 1, 3.

（9） РГАСПИ, 515/1/4306/209-238.

（10） Галкина, *АИК-К*, 192.

ープ〔第 1 ～ 3 陣〕の労働者を派遣してしまったことである。予備段階として 1 技師兼スタッフを派遣し，調査・報告すべきであったし，そのあとに必要とされる労働者を派遣すべきであった，と[11]。有能で経験豊かな炭鉱技師ピアソン（A. Pearson, Jr.）が第 4 陣でケメロヴォに到着したのは 1922 年 8 月 25 日であった。彼はその部門の責任者として事業に大いに貢献していく。

派遣労働者募集に関しても，従来党派的な解釈が下されてきて，モレイの解釈を私が批判したように，AOC 各メンバーの党派的な立場に近い労働者をそれぞれ優遇して派遣したとの解釈は成り立たない。ガルキナは，ほとんどすべての入植者は急進的な労働運動への参加者であり，労働者，社会主義者，そして共産主義者の党員であった（うち約 200 名は共産主義者であった）と記し[12]，特に IWW 系とかの区別はしていない。次篇で取り上げる予定だが，入植した彼らの思想と行動を分析する際にも，党派的な色分けにこだわりすぎることは，かえって実態把握を妨げかねない。

（11） Kennell, “A Kuzbas Chronicle,” 10. ガルキナも同様に捉えている。Галкина, *АИК-К*, 47.

（12） Галкина, *АИК-К*, 192.

お わ り に

AOC は自らの運動を開始する際に大きな困難に直面した。その考察から AOC が抱え込んだ主要な問題が明らかとなった。以下，それらをまとめておく。

(1) モスクワ，オランダ，アメリカ 3 地点にわたる遠距離間活動を短期間に行うには，少人数で始まったゆえに適任者不足は否めなかった。3 地点間の通信は当初密であったようだが，意思疎通の困難は避けられず，そのことがとりわけアメリカの AOC とオランダのリュトヘルスとの間で確認された。リュトヘルスはキャルヴァートに託された任務遂行に対して彼の訪米途上も到着後も不安視しつづけたし，他方，バーカーは現場に立ち会えないリュトヘルスからの指示に反撥したけれども，それらの確執には物理的に如何ともしがたい意思疎通の困難さが窺われる。

ちなみに，1922 年 12 月 8 日にニューヨークの TB〔バーカー〕が WDH〔ヘイウッド〕，SJR〔リュトヘルス〕，および訪露中の PPC〔コスグローヴ〕，TR〔リース〕に宛てた以下の書簡を見ると，通信自体が滞り，意思疎通どころではなくなっていた（それは AOC の唐突な組織大幅改編の予兆と言えなくもない）[1]。

「どうか留意してもらいたい，我々は（11 月 26 日の PPC と SJR の電報を除いて）WDH の書簡 32 号以来あなた方の事務所からいかなる通信も受け取っていないことに。…… ／本日，我々はケメロヴォ事務所からの 8 月 22 日付医療品要求を，モスクワで 11 月 16 日に投函されてきて受け取った。……」

「あなた方はまた，ケメロヴォで 8 月に書かれた多くの書簡が 11 月半ばまでにモスクワで投函されておらず，その一方で 10 月 25 日にケメロヴォで投函された他のものが 1 週間前にここに届いたことに留意すべきだろう。諸君，ニューヨークのメンバーは，なぜかを知りたがっている。……」

(2) AOC が当初当てにしていた CP および IWW からの組織的協力は得られず，運動をバックアップする態勢を整えるどころではなく，かえって「党派争い」を招いたことが，以下のように解明された。

① CP とは。中心的指導者キャノンの承認を得られず，リュトヘルスの代理人ハイマンは代理人の領分を超えたであろうほど AOC 全員会議で「党派的」主張を通そうとした。また CP 系の技術援助協会と繰り返された交渉は，最終的には実を結ばす，それぞれ別々に労働者派遣事業を競うことになった。そこには，第 1 篇で論じたリュトヘルスとマルテンスとの意見対立が尾を引いていた。つまり，BCXH を移民産業労働者問題で実質的に主導したマルテンスの考えに同調したヘラーが，BCXH ア

(1) РГАСПИ, 515/1/4299/167.

メリカ代表に任命され，技術援助協会を監督することになり，彼とリュトヘルスらによって派遣されたキャルヴァートらとの間で，表立たなかったけれども意見対立が再現したのである[(2)]。

② IWW 執行部とは。プロフィンテルン創設をめぐってコミンテルン執行部と対立しはじめていた IWW 執行部は，ソヴェト・ロシア政府が後援するクズバス事業に賛成しがたかった。その上，（АИК-К 発起人メンバーとなっていた）ヘイウッドとバイアーが国外逃亡した件で，それを支援した CP への非難だけでなく，高額の保釈金を踏みにじられた IWW 提供者の両人への憤りもまた収まらず，交渉の余地すらなかった。

結局のところ AOC は，CP 党員，IWW 組合員，および階級意識のある技師・労働者個々人に派遣を呼びかけた。その際の方針は，リュトヘルスによって事前に指示されていた。つまり，CP であれ IWW であれ，いずれの有能なメンバーの参加も熱望する一方で，AOC 自体が「決定的な発言力を持」ち，「あれやこれやの政治的影響による支配を回避す」べきだと。かくして，AOC 内での CP と IWW との組織的対立は望まず，そして「非党派的態度」が，最初は遊説中の対処の方針として，続いて組織運営の基礎として取られたのである。

（3）上記（1），（2）と関連して，AOC メンバー間の意見対立が，以下のように表面化した。

① 3 グループ（あくまで大まかに分けて CP グループ，IWW グループ，そしてリベラル・グループ）間の対立が，AOC 委員構成をめぐって。

② 資金援助元であるソヴェト・ロシア政府からの承認を得ることは AOC にとって不可欠であり，CTO の意向を，あるいはそれを仲介するリュトヘルスの意向を（さらにはリュトヘルスの代理人であるハイマンによる主張を），どのように受けとめるか，をめぐっても。

この内部対立もあって，AOC は 1923 年初めに抜本的な組織改編に追いやられることになる。

最後に，AOC の財政（資金援助）問題を史料制約上，追究できなかったことに触れておきたい。

AOC は運営資金不足に悩まされていた。1922 年 9 月 20 日に遊説旅行先からキャルヴァートが AOC 事務所のバーカーとムラリ宛に出した書簡に，以下の言及がある[(3)]。「我々はすでに機械購入基金に 5,000 ドル，そのうえ専門技師用基金にも数千ドル，それぞれ

（2） モレイは技術援助協会がクズバス・プロジェクトに非協力的であったことに対して「どんな理由があるのか我々にはわからない」と記していた。Morray, *Project Kuzbas*, 80. なぜ「わからない」かというと，ここに記した文脈を従来の研究は不問に付してきたからである。

（3） РГАСПИ, 515/1/4299/413.

借金している。我々が活動しているその現在の緊急予算を作成する際，我々は〔徴募〕組織目的だけのために信託基金から 10,000 ドル借りていた」。その引用文の前と後では，委員会に諮ることなしにスカイラーが装備品を発注したことにキャルヴァートが強く抗議し，小切手にサインしない旨を伝えている[(4)]。そこには，AOC が事務責任者を置かず，スカイラーが実質的に事務責任者の役割を果たしていた事情も絡んでいた。

組織改編直前の 1922 年末までに AOC は，ソヴェト・ロシア政府からどれほどの資金をどのように提供されたか，かなりの借金がどのようにして増えていったか，また（監査委員候補者のひとりへの疑念が抱かれていたように）不明朗会計は実際になかったか，など追究の必要性が全くないとは言えないだろう。

2023 年 10 月 18 日　成稿・初版

---

(4)　小切手のサインは，途中から（「組織基金 5,000 ドルを管理する」との指令を遂行するはずの）会計係のコスグローヴが除かれて，キャルヴァート，ムラリ，スカイラーのうち 2 名がサインすることに変更されていた。РГАСПИ, 515/1/4306/214.

The Autonomous Industrial Colony "Kuzbas" and S. J. Rutgers (2):

The Establishment and Operations of the American Organization Committee

by

Akito YAMANOUCHI

(Professor Emeritus of Kyushu University)

Part 1 has treated anew in detail the course of events leading up to making an agreement on the foundation of the AIC-Kuzbas [(1)]. Part 2 focuses on examining the internal problems as follows: What did the initial group set about as the first step towards realizing the AIC-Kuzbas and what kind of problems did they bear?

The initial group initiated action before making the final agreement. They aimed to divide the field for their activities into 4 (Kuzbas, Moscow, the Netherlands, and the USA) and complete arrangements to perform each task. Particularly this article takes note of the composition that H.S. Calvert and T. Barker in the USA were situated on the one side, and W.D. Haywood in Moscow on the other, of S.J. Rutgers in the Netherlands who played a role of connection and advice on both sides. The following difficulties are clarified in their long-distance activities in a hurry: (1) They had a shortage of suitable persons because they set about their task with a small number of people; (2) They could not bring good understanding one another in spite of their efforts to exchange close correspondence.

The American Organization Committee (AOC) was organized for the undertaking to dispatch engineers and workers by Calvert and others. The AOC could obtain cooperation from neither Communist Party on the spot nor the IWW and, what was worse, "factional strife" arose between the AOC and the CP/IWW:

(1) The communist J. Heiman, "the personal representative of Rutgers in New York," was very insistent in factionally gaining a majority in the AOC, which seemed to be beyond the representative sphere. Besides, the repeated negotiations between the AOC and the communist-leaning Society for Technical Aid to Soviet Russia (STASR) failed and both of them were obliged to compete each other in dispatching workers. The fact is, the conflicts of opinion between Rutgers and L.K. Martens (cf. Part 1), who had taken the lead in the Supreme Soviet of National

---

(1) My article, "The Foundation of the Autonomous Industrial Colony 'Kuzbas' and S.J. Rutgers" which has been made open access in this Repository on 5 April 1923, is revised, enlarged, and reopened on 17 October 1923 under the changed title, "The Autonomous Industrial Colony 'Kuzbas' and S.J. Rutgers (1): A New Interpretation on Its Foundation" (hereafter cited as Part 1).

Economy (VSNKh) on the matter of immigrant industrial workers, dragged on there: A.A. Heller, who had kept in step with Martens, was nominated as American representative by the VSNKh. Therefore Heller came to supervise the STASR and the conflicts were repeated again between the STASR under Heller and the AOC including Calvert and Barker, though they were not made public.

(2) The Executive of the IWW, which was disputing fiercely the Executive of the Comintern over the foundation of the Profintern, could not agree with the Kuzbas Project which the Soviet Russian Government backed up. Moreover, in the matter of the escape abroad of Haywood and J.H. Beyer under bail, the Executive of the IWW reproached the CP for its organizing the escape. Some members of the IWW, who had provided the bail and lost a considerable sum of money, were also furious not only at the CP but at two escapers.

After all, the AOC called out directly to the members of the CP, those of the IWW, and class-conscious engineers and workers. The plan of action at that time had been instructed in advance by Rutgers: The AOC should have "the advantage [over the STASR] of combining different elements (IWW, CP and others) and offer a good chance of avoiding domination by political influence of one kind or another" ("a non-partisan attitude").

The conflicts between the AOC and the CP/IWW also had an effect on the AOC's operations, especially its composition: Its members were divided into, only roughly speaking, three groups (CP's, IWW's, and Liberal). Then, the opinions of its members were divided over how to respond not only to the intention of the Soviet of Labor and Defense (STO) from which the AOC had got funds for activities, but also to that of a kind of mediator, Rutgers. (The AOC is to undergo a drastic reorganization at the beginning of 1923, partly because of the internal conflicts.)

Finally this article checks over whether or not the AOC produced good results of its undertaking to dispatch workers. The undertaking is surveyed with quantitative data in advance during the period from the spring of 1922 till the end of 1926 when the STO is to decide to dissolve and reorganize the AIC-Kuzbas.

Key words: AIC-Kuzbas, American Organization Committee, STASR, Communist Party, IWW, S.J. Rutgers